

“暮らしつづける”想いが叶うまち かわにし



令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 川西市社会福祉協議会

目 次

令和5年度 事業報告

A	法人運営事業	3
B	地域福祉事業	
B1	地域福祉活動推進事業	6
B2	ボランティア活動センター事業	8
B3	日常生活自立支援事業	12
B4	成年後見支援センター事業	14
B5	民生委員児童委員協議会連合会事業	18
B6	共同募金配分金事業	19
B7	基金事業	21
B8	資金貸付事業	23
B9	善意銀行事業	25
B10	包括的支援体制整備事業	26
C	すこやかサービスセンター事業	28
D	障がい者相談支援事業	32
E	障がい者施設	
E1	小戸作業所	34
E2	川西作業所	38
E3	ひまわり荘	41
F	障がい児施設	
F1	川西さくら園	43
F2	さくらんぼ	50
G	養護老人ホーム 満寿荘	54
H	老人福祉センター	
H1	一の鳥居老人福祉センター	56
H2	緑台老人福祉センター	59
H3	久代老人福祉センター	62
I	子育て支援	
I1	久代児童センター	65
I2	ファミリーサポートセンター	68

令和5年度事業の総括報告

令和5年度は新型コロナウイルス感染症による行動制限や感染予防策が緩和され、日常生活や社会活動が徐々にコロナ禍前にもどる一年だった。川西市社会福祉協議会（以下「本会」という）でも、制限を加えざるを得なかった様々な取り組みについて、万全の対策を期しつつ再開してきた。

コロナ禍において、このような状況だからこそ「変わらない日常」や「人とのつながり」の大切さを再確認するとともに、支援や活動を途絶えさせてしまうことなく確実に継続するための対策と工夫について考える場面が多くあった。

地域福祉活動においては、地区福祉委員会が中心となって展開する、子ども食堂や訪問型助けあい活動がさらに活発になり実施箇所や支援回数が増加し、社協活動の最も大きな特徴である住民主体の「見守り」「ふれあい」「支えあい」を大切に育むことができている。また、これまで関わりの強くなかった外国人住民の生活課題にも着目し「多文化共生」の取り組みをスタートした。

ボランティア活動事業においては、ボランティア活動に興味を持ってもらうため既存のメニューにとらわれない講座の開催や、一月に発生した能登半島地震も踏まえ、よりリアリティを持った災害ボランティアセンター設置訓練を実施した。

総合相談支援体制においては、生活困窮や社会的孤立、ひきこもり、児童虐待やDV、高齢者や障がい者への虐待や不適切な生活環境など複合化・複雑化がますます進んでいるが、社協内での連携や行政や多機関との連携による支援を積極的に行った。住まいを失い野宿を余儀なくされた世帯、障がいや疾病が原因でご近所とのトラブルが生じた世帯、関係機関は関わっているもののどの機関も課題解決に着手しないヤングケアラーの世帯など、多くの世帯へ支援した。

また、「ほっとかへん つなげる・つながる おてつだい」をスローガンに、令和6年度からの8年間を期間とした『第5次川西市地域福祉推進計画・地区福祉計画』を策定した。地域福祉が継続・発展するための「地域の耕し」、地域住民が安心して生活できるための「住民支援のしくみづくり」、社協がこれまで以上に頼られる存在になるための「見える社協・魅せる社協」を意識して、これからの活動の具体的な方向性をまとめることができた。

以下、令和5年度に本会が実施した事業について報告する。

令和5年度 重点事業方針の内容と実績

	方針項目	取組み内容と実績
1	重層的支援体制整備による包括的支援の実施	<p>社協内連携及び多機関連携による重層的支援体制を構築するため、前年度1名だった包括化推進員を3名に増員し、かつ地域担当、権利擁護支援担当、基幹相談支援担当に各々配置した。複合・多問題の課題や制度の狭間のニーズ等に対し、まずは社協内各部署での連携をしっかりと作ったうえで、関係諸機関との協働、地域住民や企業・事業所等とのコラボレーションによる包括的な支援事例を重ねた。</p>
2	地域福祉推進計画・地区福祉計画の策定	<p>策定委員会、作業部会、推進員会議を組織し、各地区でのワークショップや市内中学生へのアンケート等を実施して、現状の課題と今後8年間の地域福祉の推進方針を取りまとめることができた。</p> <p>社協の取組みをより多くの人に理解してもらえるよう、活動や実践事例を文面だけでなく写真、図、4コマまんがなどを用いて紹介した。</p>
3	これからを担う福祉人材の確保と育成	<p>地区担当職員を1名増員し、日々の地域支援や相談支援等を通して把握した地域生活課題や支援ニーズを通じた育成を図った。令和6年度の新規採用職員を確保するため、県内および大阪府の大学等への訪問等も行い優秀な人材確保ができた。</p> <p>社協内や行政での研修をはじめ、諸機関が開催する研修に積極的に参加したほか、先進地域である豊中市社協での実践研究会に複数の職員を受講させるなどした。</p>
4	自主財源向上に向けての取り組みの実施	<p>会員会費、共同募金に関して、使い道をわかりやすく説明する広報を工夫するとともに、インターネットでの募金など現金以外の納入方法に関する研究も実施し、順次採用することができた。</p>
5	社協広報活動の充実	<p>数多くある社協活動を周知する方法として、新たなSNSの導入に取り組んだ。今年度は、地域福祉担当、ボランティア活動センター、ファミリーサポートセンターでInstagramを開設した。ファミリーサポートセンターでは会員の協力も得て支援活動を具体的に紹介する動画を作成し、駅前、市役所内のデジタルサイネージなどで多くの人が目にできる環境を整備した。</p>
6	施設利用者の満足度の向上と地域との連携	<p>施設利用者の地域生活の安心が担保できるよう、また体調不良時や災害時などの緊急時にも地域の支えと施設の支えが上手く協力できる方法の模索を開始した。</p> <p>社会福祉施設を地域での移動販売の拠点の一部としたことで、近隣住民が施設に立ち寄り、利用者との接点を持てるようにした。</p> <p>これらについては、地域福祉推進計画にも盛り込み、今後一層の推進を図っていく。</p>

A1	法人運営事業	決算科目	法人運営事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>① 社協の魅力を伝えるため、広報紙のリニューアル（「ぼけっと」）やInstagramの開設などに取り組み、幅広い層への社協の浸透に努めた。</p> <p>② 既存の会費納入方法にワンクリック募金（携帯電話からの募金など）を追加し、寄付方法の選択肢を増やした。</p> <p>③ 職員育成に向けた研修体系を作成するとともに、全般的な課題に対しては幅広い層を対象とした研修会を実施した。</p> <p>④ 第5次地域福祉推進計画・地区福祉計画を策定し、各施設・事業が横断的に取り組む今後8年間の活動指針とした。</p>

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	93,022,487	97,875,410	4,852,923
会費収入	7,296,909	6,960,190	△ 336,719
経常経費補助金収入	64,604,881	80,696,839	16,091,958
拠点区分間繰入金収入	20,873,134	7,963,905	△ 12,909,229
その他	247,563	2,254,476	2,006,913
(支 出)	92,134,488	95,230,646	3,096,158
人件費	56,717,219	50,465,153	△ 6,252,066
事業費	427,385	1,249,443	822,058
事務費	3,816,643	25,670,736	21,854,093
積立資産支出	20,100,098	8,639,398	△ 11,460,700
拠点区分間繰入金支出	6,124,146	7,114,394	990,248
その他	4,948,997	2,091,522	△ 2,857,475

今後の課題
<p>① 労働人口減少による採用難が本会でも問題となっており、職員募集広告の工夫や魅力ある職場づくりの取り組みが必要。</p> <p>② 自主財源の確保に向けた研究を進め、新たな柱となるような取り組みの確立が必要。</p> <p>③ 税理士との連携によるガバナンスの確保をさらにすすめるとともに、マニュアル化や専門家との意見交換が行える体制づくりを進めることが必要。</p>

当期資金収支差額	887,999	2,644,764	1,756,765
前期末資金収支残高	1,010,617	1,898,616	887,999
当期末支払資金残高	1,898,616	4,543,380	2,644,764

主な増減理由
<p>① 経常経費補助金収入は、未払消費税の社協補助金への受け入れによる増</p> <p>② 人件費支出は、職員の長期休暇による減及び時間外勤務の削減による減</p> <p>③ 事務費支出は、未払消費税の租税公課への計上による増</p> <p>④ 積立資産支出は、大口寄付が無かったことによる減</p> <p>⑤ その他支出は、ソフトウェア取得が無かったことによる減</p>

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	福祉情報の受発信に対する取り組みの充実	取組項目	①
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> SNSの特徴である情報伝達の早さや、若い世代がSNSを使う機会が多いことに着目し、LINE、InstagramなどのSNSの活用をはじめすることで、情報に触れる機会が少なかった層や関心が低かった層への情報提供を行った。ファミリーサポートセンター会員やボランティア活動センター事業の参加者増加につながった。 			
(2)	ホームページや広報紙、情報誌等の充実	取組項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 社協広報紙「社協かわにし」をリニューアルし「ぼけっと」を発行すると共に、記事の内容も普段福祉に関心がない方々にも興味を持っていただけるように工夫した。 			

2	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	各種自主財源のあり方検討	取組項目	①

【実績と成果】

- ・ 会員会費の納付方法にパソコンや携帯電話を使用した方法を取り入れ利便性の向上に努めたが、減少に歯止めはかけられなかった。赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金においても、多くの団体に街頭募金に参加していただいたが寄付額は前年度を下回った。

① 会員会費実績

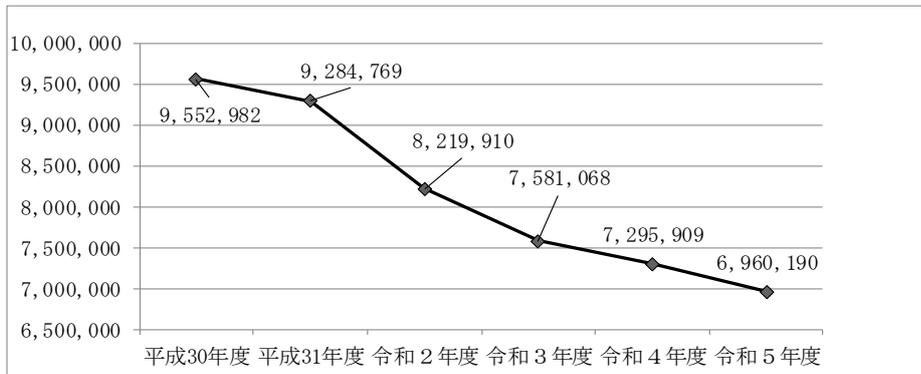
・ 地区福祉委員会別会員会費集計表

(単位:円)

地区名	金額	地区名	金額	地区名	金額
久代小	328,550	明峰小	811,857	けやき坂小	55,315
加茂小	535,703	多田	263,835	東谷	365,290
川西小	507,850	多田東	428,892	大和	549,113
桜小	189,600	グリーンハイツ	1,647,519	北陵	258,105
北小	220,560	清和台	741,801	その他	56,200
				合計	6,960,190

・ 年度別会員会費の推移

(単位:円)



② 川西市共同募金委員会への協力

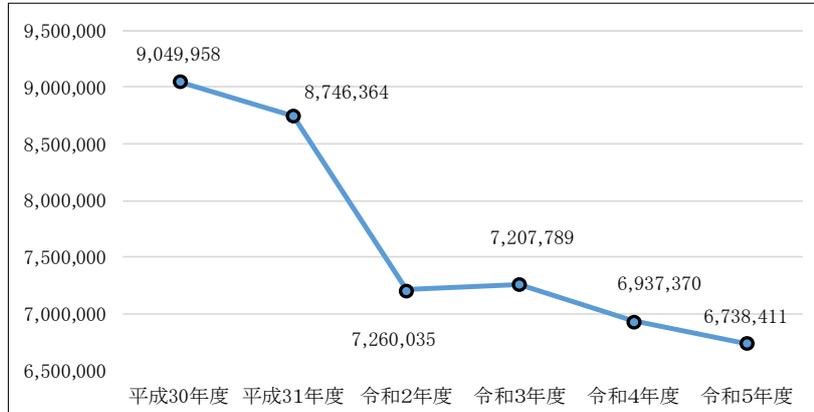
・ 共同募金実績

(単位:円)

広域目標額(円)	地域目標額(円)	目標額計(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了日
2,407,000	5,382,000	7,789,000	6,738,411	86.5%	令和5年12月31日

・ 共同募金年度別推移表

(単位:円)



・歳末たすけあい運動持ち寄り金実績

目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了年月日
5,400,000	4,459,471	82.6%	令和5年12月31日

・歳末たすけあい運動持ち寄り金年度別推移表

(単位:円)



3	ほっとかない・あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 施設では、個別研修計画に基づき研修を実施した。法人においては、全5回の全体研修を実施し、自己マネジメントや広報に関わるデザイン研修、相談業務の基本について、インボイス研修、豊中市社協へ実践研修に何うなど実践に役立つ研修に取り組んだ。 			

その他

(1)	ガバナンスの強化
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 会計業務に税理士によるチェック体制をとることにより業務の疑問を解決し確実な会計処理をすすめた。また、インボイス制度開始の際は制度理解のための研修会を開催し、制度理解を進めガバナンスの強化に努めた。 	
(2)	第5次川西市地域福祉推進計画・地区福祉計画の策定
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 第4次川西市地域福祉推進計画・地区福祉計画の実施状況評価や、5次計画に向けたアンケート結果・ワークショップの開催、策定委員会・作業部会・推進員会議による意見交換を経て、令和6年度から13年度にわたる8年間の指針となる第5次地域福祉推進計画・地区福祉計画を策定した。 川西市の地域福祉計画及び地域別構想の内容とリンクしたものとなっており、縦割りではない取り組み、関係機関等と協力した事業実施等を目指している。 	
(3)	職員確保の取り組み
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 近年、新規の職員採用が難しくなっているが、本会も例外では無く職員の欠員が長引くといった状況があり、ネット媒体などの活用に努めた。あらゆる職種でこのような状況となっているため、職員の雇用確保が大きな課題である。 	

B1	地域福祉事業	決算科目	地域福祉活動推進事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
<p>① フードドライブを通して子ども食堂を実施している団体と企業が顔の見えるつながりを構築できた。法人内連携のもと、企業のイベントに実施団体と市社協が参画し、フードドライブの啓発につなげた。</p> <p>② 第5次地区福祉計画策定に向け、各地区福祉委員会における協議が有意義になるよう働きかけた。また、人材確保においてSNS活用の有効性が協議され、地区福祉委員会がSNSに関心を持ち、取り組む機会となった。</p> <p>③ ㈱ダイエーからの相談を受けたことを機に、地区担当が住民の買い物への困り事を把握し、買い物支援ネットワークが立ち上がった。各地域で移動販売が開始され、買い物物が交流の場となり住民のニーズは充足しつつある。</p>

今後の課題
<p>① 個別の相談から地域づくりにつながるように地区福祉委員会等の地域住民、関係機関と連携をして地域課題の解決に取り組む。</p> <p>② 「つながり支えあう」地域づくりに向けて、今まで「つながり」を持っていなかった人や企業・団体への積極的にアプローチする必要がある。</p> <p>③ 地区福祉委員会における活動者の高齢化や担い手の確保の課題について、検討委員会を設置し、対応策を協議していく必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	44,130,310	54,318,297	10,187,987
経常経費補助金収入	15,529,520	20,103,841	4,574,321
受託金収入	19,762,598	27,736,490	7,973,892
その他	8,838,192	6,477,966	△ 2,360,226
			0
(支 出)	46,069,866	53,735,682	7,665,816
人件費	34,710,413	45,780,672	11,070,259
事業費	1,532,907	2,144,631	611,724
事務費	770,496	815,036	44,540
助成金支出	4,802,538	4,663,315	△ 139,223
その他	4,253,512	332,028	△ 3,921,484

当期資金収支差額	△ 1,939,556	582,615	2,522,171
前期末資金収支残高	3,160,544	1,220,988	△ 1,939,556
当期末支払資金残高	1,220,988	1,803,603	582,615

主な増減理由
<p>① 人件費は、人員増に伴う増</p> <p>② 事業費は、情報機器整備に伴う増</p>

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	福祉デザインひろばづくり(住民主体の地域福祉活動)の推進	活動項目	1-1
(1)	住民主体の「福祉デザインひろば」づくりの推進	取組項目	①
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会がICTの活用を身近に感じて地域福祉活動の推進につながるように、スマホサポーター養成講座を令和6年1月に3回開催。様々な地区から受講生が参加する交流の場ともなり、各地区取り組み状況について意見交換が行われた。 地域福祉担当がInstagramを開発。各地区の地域福祉活動を訪問した様子をInstagramにて情報発信し、地域活動においてICTの活用を推進できるように地区福祉委員会に働きかけた。 第5次地区福祉計画の策定時協議の場では、住民組織、専門機関、学校を含めた行政、企業等の他機関の参画により、地域課題を多角的な視点で捉えることができた。協議を通して、住民の気づきを市社協につなげた上で関係機関につなげていく相談体制を検討することもできた。 			

・ コミュニティワーカーの地域支援活動状況

活動内容	活動件数 (令和5年度)	活動内容詳細
会議・行事等参加	637 件	定例会等での助言・提案、各種活動への支援等
会議の主催・講義の実施等	26 件	地域活動支援に資する会議の主催や研修会での講話等
相談対応	221 件	個別相談に関する相談対応
連絡調整	625 件	活動に関する連絡調整
情報共有	328 件	他地区の活動紹介など
ネットワークづくり	63 件	ネットワークづくりを目的とする地域との関わり
その他	55 件	上記以外の活動
合計	1,955 件	

・ 第2層圏域における協議の場

活動内容	実施 地区数	延 開催回数	延 参加者数
福祉ネットワーク会議・第2層協議体等の開催	14 地区	68 回	1,369 人
座談会・懇談会などの開催	1 地区	3 回	50 人
理事会、役員会、部会等の開催	14 地区	681 回	10,927 人
合計	29 地区	752 回	12,346 人

2	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1								
(1)	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①								
【実績と成果】											
<ul style="list-style-type: none"> 14地区福祉委員会連絡会、ブロック連絡会等にて全市的に共通の課題である地域福祉活動における人材確保について協議し、地区ごとに工夫している点について情報交換を行った。 多文化共生セミナーを開催し、外国住民も含めた多様性を認め合う共生のまちづくりへの理解を深めた。また、セミナーへの参加がきっかけとなり多文化共生サポーター（地域共生社会に向け、市内在住の外国人とともに生活できる地域づくり活動への協力者）の登録者の増につながった。 											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実施 地区数</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉委員対象の研修(部会研修含む)</td> <td>14 地区</td> <td>30 回</td> <td>811 人</td> </tr> </tbody> </table>				内容	実施 地区数	実施回数	参加人数	福祉委員対象の研修(部会研修含む)	14 地区	30 回	811 人
内容	実施 地区数	実施回数	参加人数								
福祉委員対象の研修(部会研修含む)	14 地区	30 回	811 人								

3	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1										
(1)	地域福祉活動の推進を通じたニーズ把握	取組項目	①										
【実績と成果】													
<ul style="list-style-type: none"> 個別の相談に応じた地域福祉活動を推進できるよう、地域の会議や活動の参加時に住民の困り事を丁寧に受け止められるよう注力し、地域と一緒に個別相談対応に取り組んだ。 個別の相談を対応する中で、地域ケア会議や複合課題に関しては「川西市地域連携支援チーム会議」にて協議を行い、関係機関との連携の元で地域課題を共有しつつ支援体制について検討した。 													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>延件数</th> <th>うち他機関 との連携</th> <th>うち地域住 民との連携</th> <th>うち地域ケア会 議、ケース会議</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個別相談対応</td> <td>221 件</td> <td>71 件</td> <td>79 件</td> <td>13 件</td> </tr> </tbody> </table>				内容	延件数	うち他機関 との連携	うち地域住 民との連携	うち地域ケア会 議、ケース会議	個別相談対応	221 件	71 件	79 件	13 件
内容	延件数	うち他機関 との連携	うち地域住 民との連携	うち地域ケア会 議、ケース会議									
個別相談対応	221 件	71 件	79 件	13 件									

B2	地域福祉事業	決算科目	ボランティア活動センター事業
----	--------	------	----------------

主な事業内容・成果
<p>① 災害ボランティアセンターの設置訓練を開催した。</p> <p>② 多くの方が興味を持ってもらえるような講座を検討・開催し、これまで市社協と関わりの無かった人材の確保に取り組んだ。</p> <p>③ インスタグラムを開設し、ボランティアグループの紹介や講座情報の発信を行った。</p>

今後の課題
<p>① 災害ボランティアセンター設置時の初動対応に必要な資材をリストアップし、順次購入を進めていく必要がある。</p> <p>② ボランティアのすそを広げるために、地域で求められている講座の調査を実施する必要がある。</p> <p>③ インスタグラムにおける情報発信の充実。</p> <p>④ 継続的なボランティア人材の確保。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	8,098,863	23,559,022	15,460,159
寄付金収入	53,251	41,112	△ 12,139
経営経費補助金収入	7,742,094	8,322,312	580,218
基金積立資産取崩収入	0	15,000,000	15,000,000
その他	303,518	195,598	△ 107,920
			0
(支 出)	8,098,863	23,559,022	15,460,159
人件費	6,099,033	6,516,312	417,279
事業費	748,030	695,239	△ 52,791
事務費	1,080,033	1,141,203	61,170
助成金支出	27,000	27,000	0
基金積立資産支出	0	15,043,362	15,043,362
その他	144,767	135,906	△ 8,861

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	438,383	438,383	0
当期末支払資金残高	438,383	438,383	0

主な増減理由
① 人件費は、給料規定の改定による増

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	地区ボランティア部会への支援	取組項目	③
<ul style="list-style-type: none"> 立ち上げ予定のボランティア部会において、ボランティア市民活動災害共済についての説明を地区担当職員と連携して行った。また、ボランティア部会の例会に参画し、抱えている課題解決に向けて助言や情報提供を行った。 			

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1-3
(1)	災害ボランティアセンターの設置と運営	取組項目	④
<ul style="list-style-type: none"> キセラ川西プラザにぎわい遊歩道で、市社協職員の役割やセンターの運営等について、シミュレーション訓練を実施した。 			

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	幅広い世代が活躍できる場づくり	取組項目	③
<ul style="list-style-type: none"> 関係団体と連携し、ボランティア講座に参加した受講生が、講座で学んだことを披露できる場を設けた。また、多くの世代が参加してもらえるような講座として、コーヒー講座を開催し、これまで関わりのなかった人材とつながることができた。 			

【実績と成果】

・ ボランティア講座開催一覧

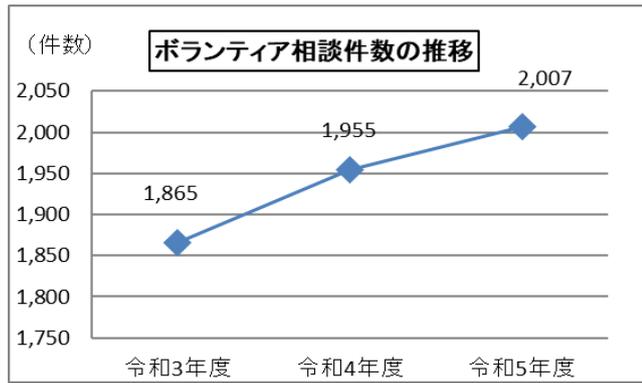
	講座名	開催期間	回数	受講人数	延べ人数	対象	共催団体・協働団体など
1	点訳ボランティア入門講座	6/13～8/8	9	3	24	一般	点字グループりんどう
2	子ども手話教室	7/22～9/9	7	14	66	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
3	笑いからはじまる コミュニケーション講座	8/19	1	20	20	一般	ほっとほほえみ
4	聞こえを学ぶ筆談ボランティア講座	9/1～9/29	5	6	19	一般	川西サマリー
5	お出かけ介助ボランティア講座	10/11～10/25	3	3	5	一般	車イス介助を学ぶ会
6	手づくり布遊具 ボランティア入門講座	10/12～10/19	2	15	26	一般	ボランティアいずみ
7	子ども手話教室	11/4～12/23	7	20	100	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
8	傾聴ボランティア入門講座	12/1～12/8	2	11	16	一般	傾聴ボランティア よりそい
9	おいしいコーヒー講座	3/17～3/31	3	11	32	一般	カブンス珈琲店 高木円良 高橋恭太
10	ボランティア1日体験教室（点字）	5/20	1	6	6	一般	点字グループりんどう
11	ボランティア1日体験教室（車イス）	6/17	1	6	6	一般	車イス介助を学ぶ会
12	ボランティア1日体験教室（筆談）	7/15	1	3	3	一般	川西サマリー
13	ボランティア1日体験教室 （ネイル&ハンドマッサージ）	9/16	1	9	9	一般	個人ボランティア 藤川恵子
14	ボランティア1日体験教室（手話）	10/21	1	14	14	一般	手話サークル パピヨン
15	ボランティア1日体験教室 （メイクセラピー）	11/11	1	8	8	一般	個人ボランティア 藤川恵子
16	出前ボランティア講座 （ハンドマッサージ）	6/22	1	8	8	福祉委員	アロマプリズム
17	出前ボランティア講座（防災）	6/28	1	20	20	福祉委員	かわにし防災士の会
18	出前ボランティア講座（車イス）	8/17	1	15	15	福祉委員	車イス介助を学ぶ会
19	出前ボランティア講座 （ハンドマッサージ）	12/22	1	13	13	一般	個人ボランティア 藤川恵子
20	出前ボランティア講座（救命救急）	1/22(AM)	1	8	8	一般	かわにし防災士の会
21	出前ボランティア講座（救命救急）	1/22(PM)	1	8	8	一般	かわにし防災士の会
22	出前ボランティア講座（救命救急）	1/29	1	8	8	一般	かわにし防災士の会
23	出前ボランティア講座（車イス）	2/4	1	100	100	一般	車イス介助を学ぶ会
24	出前ボランティア講座（筆談）	2/27	1	10	10	施設・団体	川西サマリー
合 計			54	339	544		

【その他の事業】

【実績と成果】

・ 相談内容件数 (単位:件数)

活動希望	情報提供	ニーズ
71	22	275
共済	器材	悩み
176	3	13
連絡・報告	講座	提案
1,379	58	2
苦情	その他	合計
4	4	2,007



・ ボランティア相談者別件数内訳 (単位:件数)

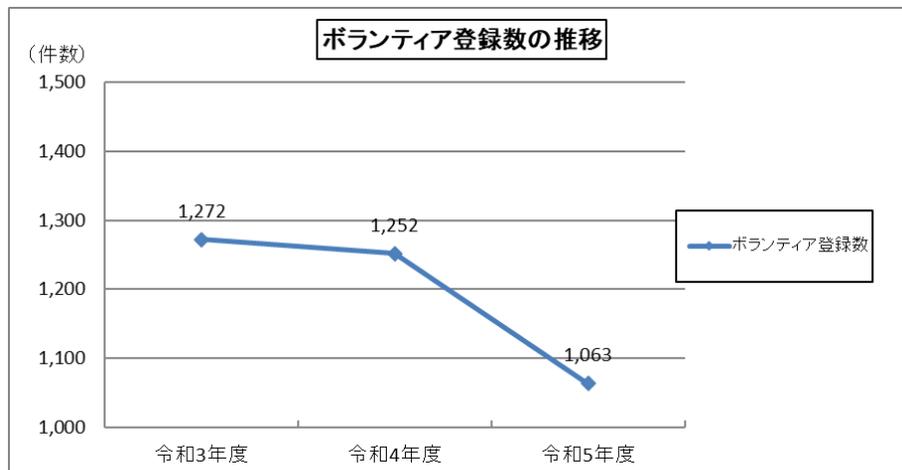
市民	施設・団体	行政	企業	合計
213	1,580	196	18	2,007

・ 種類別ボランティア活動状況 (単位:人)

保育等	点訳	音訳	傾聴	筆談	調理	家事援助	行事手伝	CH指導等
413	40	145	102	42	8	1	83	22
外出支援	施設手伝	特技活動	手話	講座等	居場所	その他		
0	25	397	73	59	167	300		
合計	延べ活動人数							
1,877	7,146							

・ ボランティア活動センター登録状況(令和4年度末現在登録者)

種別	人数	内訳	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上
個人登録	54名		0名	34名	20名
グループ登録(52G)	1,009名		15名	364名	630名
合計	1,063名		15名	398名	650名

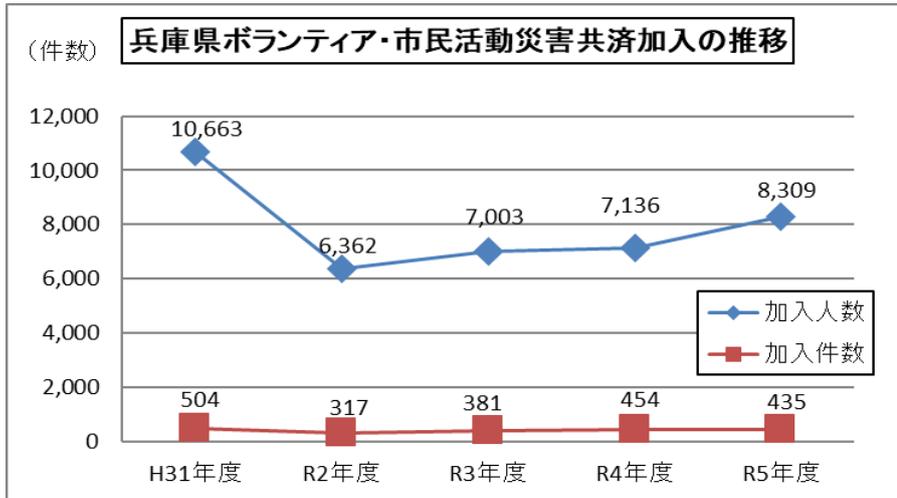


・ ボランティア活動センター運営委員会の開催

開催日	場所	内容
11月10日(金)	キセラ川西プラザ	令和5年度活動状況の報告について ボランティア登録グループ活動助成金 重点活動助成の選考について その他
2月28日(火)	キセラ川西プラザ	令和5年度事業実施状況報告について 令和6年度事業計画(案)について 令和6年度ボランティア活動センター登録グループ活動助成金について 令和6年度運営委員会及び重点活動助成事業の開催について

・ボランティア・市民活動災害共済(保険)の取り扱い

加入件数	市民活動		天災型		行事用保険		移送	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
人数	327件	4,634名	3件	49名	105件	3,626名	0件	0名
事故件数	6		0		0		0	



・登録ボランティアグループ活動助成

助成先	助成金額	助成上限額
川西市ボランティア連絡協議会	280,000円	280,000円
V連加入ボランティアグループ(6グループ)	294,000円	49,000円
サポーター登録ボランティアグループ(27グループ)	686,000円	26,000円
一般登録ボランティアグループ(2グループ)	26,000円	13,000円
合計助成金額	1,286,000円	

※サポーター登録グループ(2グループ)は活動未実施のため、返金。

・登録ボランティアグループ中級研修会(フォローアップ)助成

助成先	助成金額
音訳、手話、点訳の3グループ(各50,000円)	150,000円

・ひょうごボランティア基金県民ボランティア助成金(※1グループにつき20,000円)

令和5年度		令和4年度	
助成グループ数	助成金総額	助成グループ数	助成金総額
61グループ	1,220,000円	59グループ	1,770,000円

・民間財団助成金の申請支援

申請団体名	申請額(助成額)	内容	助成団体
手話サークルパピヨン	232,000円	パソコン、プロジェクターの購入	(公財)車両競技公益資金記念財団

- ・市社協ホームページなどの媒体を活用するとともに、コミュニティワーカーと連携し、地区福祉委員会役員会、ボランティアグループの例会等において助成金情報の発信に取り組んだ。また、申請団体へは、申請書類に係る作成アドバイス、推薦など幅広く財源面の支援を行った。

B3	地域福祉事業	決算科目	日常生活自立支援事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
<p>判断能力に不安がある、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者が、住みなれた地域で安心して暮らすために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行った。川西市やその他関係機関と連携を図り、利用者の意思決定に基づいた自立支援や課題解決に努めた。</p> <p>成年後見支援センターと一体的な相談支援を行い、権利擁護支援の必要な方に適切な支援が繋がるように取り組んだ。またコミュニティワーカーと利用者の社会参加のきっかけや地域との繋がりを協議する場「水曜ミーティング」を設け、財務管理に留まらない権利擁護支援の実践に努めた。</p> <p>権利擁護支援の質の向上の為、積極的に兵庫県社会福祉協議会の研修会・会議等に参加した。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収入)	3,380,200	3,649,700	269,500
受託金収入	3,124,000	3,143,000	19,000
その他	256,200	506,700	250,500
(支出)	3,398,460	3,585,753	187,293
人件費	2,398,994	2,381,420	△ 17,574
事業費	698,095	340,121	△ 357,974
事務費	301,371	13,792	△ 287,579
その他	0	850,420	850,420

当期資金収支差額	△ 18,260	63,947	82,207
前期末資金収支残高	36,607	18,347	△ 18,260
当期末支払資金残高	18,347	82,294	63,947

今後の課題
<p>① 利用者を支援する上で、生じた問題を社協だけでなく、支援者全員で共有することが必要である。</p> <p>② 利用者が地域で孤立しないように、社会参加のきっかけを考える機会が必要である。</p> <p>③ 県委託金などの財源確保。</p>

主な増減理由
<p>① その他収入は、利用料収入増に伴う増</p> <p>② その他支出は、原動機付き自転車及びノートパソコン購入に伴う支出増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2			
(1)	権利擁護の推進	取組項目	③			
【実績と成果】						
<ul style="list-style-type: none"> 川西市やその他関係機関との連携、成年後見支援センター、コミュニティワーカー等他部署担当職員と協働し、利用者が地域で安心して暮らせるよう支援し、権利擁護の推進に努めた。 						
相談援助件数(問い合わせ・相談援助件数)						
内 容	本事業の利用に関するもの				その他	合 計
対 象 者	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	不 明・その他	/	/
事 項						
a. 問合せ件数 (制度、事業について)	11	6	7	8	0	32
b. 初回相談件数 (初回相談受付)	10	4	6	2	/	22
c. 相談援助件数 (ab以外)	706	213	395	14	/	1,328
合 計	727	223	408	24	0	1,382

- ・ 日常生活自立支援事業年度末利用者数 30件
(内訳:認知症高齢者 14件 知的障がい者 9件 精神障がい者 7件 その他 0件)
新規契約 13件
解約 10件 (内訳:成年後見制度移行 4件 施設入所3件 他市長期入院 1件 死亡2件)
生活支援員訪問回数 582回(前年度 635回) 総活動時間数1,092 時間(前年度 1,145時間)
- ・ コミュニティワーカーと共に水曜ミーティングを15回開催し、利用者が地域でより自立した生活が送れるように社会参加のきっかけや地域との繋がりづくりについて協議した。
- ・ 地域包括支援センターや地域における関係機関とケース支援会議を7回開催し、連携を図りながら支援を行った。
- ・ 成年後見支援センターと協働し出前講座を15回開催し、成年後見制度と日常生活自立支援事業を寸劇で分かりやすく市民の方に知ってもらった。
- ・ 地域包括支援センター主催の権利擁護支援スキルアップ研修「もっと知りたい！成年後見制度と日常生活自立支援事業」でZOOM配信を行い、関係機関へ事業の周知啓発に努めた。
対象者:地域包括支援センター、介護サービス事業所、介護施設、病院で従事する職員 78名参加
- ・ 成年後見支援センターや他の支援者と共に支援検討会議を開催して、最もよい支援が何かを検討した。
- ・ 社協広報紙へ事業紹介文を掲載しPRを行った。

B4	地域福祉事業	決算科目	成年後見支援センター事業
----	--------	------	--------------

主な事業内容・成果
<p>権利擁護支援の必要な方が、尊厳のある本人らしい生活が継続できるよう、関係機関や法律職との連携により、成年後見制度や必要な支援につなげた。中核機関として、地域連携つながりネット協議会を立ち上げ、総合的な権利擁護支援体制の構築を図るための協議を行った。相談から受任調整まで、センター登録専門職や関係機関と連携し、本人に寄り添った権利擁護支援を行った。また、市民後見人の養成研修を開催、受任者の養成に努めるとともに、社協が活動中の市民後見人の監督人として適正な監督業務やバックアップ支援を行った。</p>

今後の課題
<p>① 権利擁護支援における地域住民や専門職など多様な主体との地域連携ネットワークの体制づくりの強化と、権利擁護支援に関する支援者への共通認識を広めていく必要がある。</p> <p>② 市民後見人養成研修の受講者の増と登録者の拡充及び活躍支援が必要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	28,219,081	19,230,884	△ 8,988,197
経常経費補助金収入	153,381	217,900	64,519
受託金収入	27,951,700	18,898,984	△ 9,052,716
拠点区分間繰入金収入	114,000	114,000	0
(支 出)	28,151,081	19,165,295	△ 8,985,786
人件費	23,878,518	15,843,993	△ 8,034,525
事業費	1,012,889	1,016,493	3,604
事務費	3,132,930	2,120,907	△ 1,012,023
その他	126,744	183,902	57,158

当期資金収支差額	68,000	65,589	△ 2,411
前期末資金収支残高	150,410	218,410	68,000
当期末支払資金残高	218,410	283,999	65,589

主な増減理由
<p>① 人件費は、予算組み替えに伴う減</p> <p>② 事務費は、消費税の減に伴う減</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	”我が事”と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②
<p>【実績と成果】</p> <p>○ 出前講座の実施 15回 受講者194人 権利擁護サポーターと共に地域へ出向き、主に高齢者に対して成年後見制度と日常生活自立支援事業の周知、権利擁護の啓発を図った。</p> <p>○ 権利擁護支援スキルアップ研修(オンライン配信) 参加者 78人 (日 時) 令和6年1月17日(水)10:00~11:30 (内 容) 講話「もっと知りたい! 成年後見制度、日常生活自立支援事業」 よくあるQ&A(地域包括支援センター職員と問答形式) (対 象) ケアマネジャー、地域包括支援センター職員、医療相談員、市職員など 専門職に対し、制度の正しい理解、意思決定支援の理解を進めるため昨年度に引き続き、地域包括支援センターと研修会を共催した。</p>			

【実績と成果】

○ 相談員による相談 月～金曜日 9:00～17:00

相談件数 延べ 787件 (うち、新規実件数 147件)

市民、専門職からの相談を随時、受け付け対応した。ケースに応じて関係機関と連携し、成年後見制度の申し立て支援や候補者のマッチングを行った。

相談件数	(単位:件)
法定後見の相談・支援	683
任意後見の相談	29
研修・講座等について	54
その他	21
合計	787

相談経路	(単位:件)
本人	109
親族	166
関係機関	502
その他・不明	10
合計	787

※その他…専門相談申込みなど

○ 司法書士による成年後見相談 毎月第3水曜日 13:00～16:00

相談件数 9件

○ 心配ごと相談所 毎週月曜日、木曜日(年末年始、祝日は休み) 午後1時30分～4時

相談員 15名(民生委員児童委員)

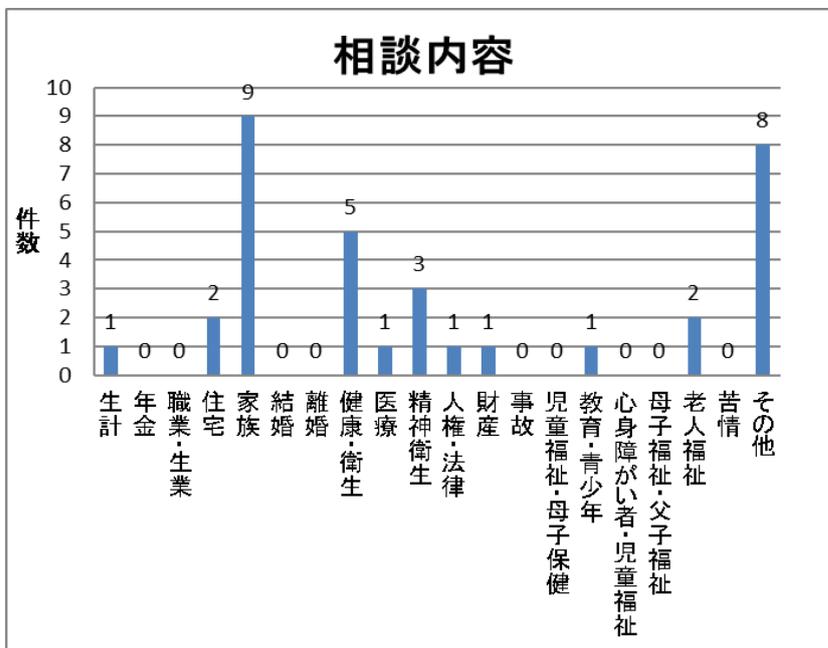
相談件数 30件

来所…13件 電話…17件

月曜日…15件 木曜日…15件

相談内容別件数 34件 (1件の相談に複数の内容を含む)

(単位:件)



連携、つなぎ先

- ・市役所(生活相談課、生活支援課、人権推進課、介護保険課、医療助成・年金課)
- ・地域包括支援センター
- ・その他の機関(ハローワーク等)

(3)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
【実績と成果】			
○ 専門職登録と連携支援			
	職種	登録者数(名)	候補者マッチング(件)
	弁護士	7	0
	司法書士	12	16
	社会福祉士	13	7
*その他…債務整理、自己破産			
○ 権利擁護支援検討会議の開催 17 回			
○ 市民後見人受任調整会議の開催 1 回			
0			
2	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくり	取組項目	①
【実績と成果】			
○ 運営委員会 開催数 1回			
	開催日時	内容	参加者 場所
	令和6年3月19日(火) 14:00~15:30	(報告事項) 令和5年度事業報告 (協議事項) 令和6年度事業計画(案) 市民後見人養成研修の見直しについて ・受講者の確保 ・修了後の活躍の場の充実	12人 キセラ川西 プラザ 文化棟 大会議室
○ 地域連携つながりネット協議会 開催数 2回			
	開催日時	内容	参加者 場所
	令和5年6月14日(水) 14:00~16:00 (第3回)	◎ 地域連携つながりネット協議会における協議について ◎ 抽出した問題とその課題と対応の検討 ・権利擁護意識、成年後見制度や日常生活自立支援事業の浸透 ・潜在的ニーズがつかめない、本人や家族が拒否して支援が進まないケースについて	18人 キセラ川西 プラザ 歯っぴいルーム
	令和6年1月24日(水) 14:00~16:00 (第4回)	◎ 地域連携つながりネット協議会における協議について ◎ 抽出した問題とその課題と対応の検討 ・対象者別権利擁護に支援が必要な方に対する困りごと ・「あったらいいなあ」という啓発ツールや効果的なキーワード ・新たな人材育成「権利擁護サポーター養成について」 ◎ 令和5年度“かけはし”活動の報告	15人 川西市シルバー 人材センター

3	各活動における人材発掘と育成	取組項目	2-1
(1)	市民後見人の養成と活動支援	取組項目	④

【実績と成果】

○ 市民後見人養成研修

	開催日	会場	参加者(人)
説明会	6月20日・23日	キセラ川西プラザ福祉棟 共用会議室	19
研修	7月14日～11月10日	キセラ川西プラザ福祉棟 共用会議室	10
実習	11月～1月	満寿荘、小戸作業所、 日常生活自立支援事業利用者宅	10
市民後見人フォローアップ研修としての参加			55

○ 市民後見人養成研修修了者人材バンク登録

登録実人数 42人

内 容	登録者数(うち、新規)(人)
市民後見人候補者登録者数	5 (5)
権利擁護サポーター	37 (9)
日常生活自立支援事業生活支援員登録者数	12 (5)
合 計	54 (19)

○ 市民後見人に関するあり方検討

市民後見人養成に関する検討会議の開催 3回(令和5年9月～11月の間)

(方向性)養成研修の主眼を「市民後見人の養成」から「地域共生社会実現のための人材育成」へ変更
市民後見人のあり方について継続検討

○ 市民後見人の活躍支援

市民後見人受任件数 3件 ※うち1件は、令和6年2月に終了

監督人として、市民後見人との定期面談に加えて随時、相談を受け付け、市民後見人が安心して活動できるよう支援した。

○ 権利擁護サポーターの活躍支援

活動内容	開催回数(回)	延べ参加人数(人)
サポーターミーティング	8	61
出前講座での啓発	15	71
サポーター通信の発行	1	

市民後見人養成研修修了者に呼びかけ「参加できるときに、できることを」をモットーに、市民後見人養成研修で得た知識を活かし、権利擁護サポーター活動を始動した。今年度は、出前講座における啓発ツールの開発と出前講座での啓発活動に取り組んだ。

B5	地域福祉事業	決算科目	民生委員児童委員協議会連合会事業
----	--------	------	------------------

主な事業内容・成果
① 民生・児童協力委員も対象とした、全体研修を開催した。 ② 関係機関と連携し、候補者を確保した。 ③ 広報紙等の周知方法を見直した。

今後の課題
① 動画研修を活用した、研修の機会確保と環境の整備。 ② 欠員区域解消。 ③ 一斉改選時の人材確保に向けた制度の周知。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	9,950,644	6,076,785	△ 3,873,859
受託金収入	9,950,644	6,076,785	△ 3,873,859
			0
			0
			0
			0
(支 出)	9,950,644	6,076,785	△ 3,873,859
人件費	8,624,516	5,072,564	△ 3,551,952
事業費	12,665	14,959	2,294
事務費	1,273,119	941,598	△ 331,521
その他	40,344	47,664	7,320
			0
			0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 職員異動に伴う人件費減 ② 消費税支払い額が減少したことに伴う事務費減

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の企画に参加し、研修の効果を高められるよう働きかけた。 ・ 欠員の状況を地域団体に説明し、候補者抽出に協力してもらえるよう働きかけた。 ・ 委員活動の周知方法見直しを促した。 ・ 委員が把握した困りごとを適宜情報共有し、関係機関との連携につなげた。 			

B6	地域福祉事業	決算科目	共同募金配分金事業
----	--------	------	-----------

主な事業内容・成果
<p>前年度に実施された赤い羽根共同募金運動の配分金を活用し、子育て支援グループへの助成やボランティア活動の振興等、地域福祉事業が推進されるよう取り組み、募金を通じた地域でのつながり、支え合いづくりに努めた。</p> <p>歳末たすけあい配分金事業は、要援護世帯や、福祉施設や団体、小地域ネットワーク事業等に幅広く配分し、支援を行った。</p>

今後の課題
<p>① 幅広い世代に向けて共同募金の意義や役割を周知・啓発が必要である。</p> <p>② 時代に即した生活・福祉課題に対応できるよう、配分先の見直しや地域のニーズに合った配分先の検討が必要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	16,858,621	12,989,348	△ 3,869,273
経常経費補助金収入	16,282,249	12,989,348	△ 3,292,901
その他	576,372	0	576,372
(支 出)	16,858,621	12,989,348	△ 3,869,273
事業費	8,921,506	7,363,908	△ 1,557,598
事務費	33,902	17,550	△ 16,352
助成金支出	7,326,841	5,607,890	△ 1,718,951
その他	576,372	0	△ 576,372

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>①募金額の減少に伴う収入減</p> <p>②配分先の見直しに伴う事業費支出の減</p> <p>③昨年度、歳末繰越金支出の活用による一時的な支出増による減</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1-1
(1)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区福祉委員会、地区コミュニティへ助成を行い、住民交流等、福祉のまちづくりが推進されるよう支援した。つながりサポート事業や子ども食堂、カフェの立ち上げ支援への公募助成を行うなど、地域ごとの特性に合わせた福祉事業に役立てられるよう支援した。 			
(2)	子育て支援の推進	取組項目	⑤
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の34のまちの子育てひろば・サークルが実施する交流会などの事業へ助成を行い、その活動に役立てられた。 			

2	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 毎月第3土曜日にボランティア活動の相談日を設け、学生や勤労者が、自分らしいボランティア活動に参加できるようコーディネート機能を発揮した。 			
(2)	ボランティアグループなどへの支援	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動のすそ野が広がるよう助成金を配分した36グループでは、研修会費用など各グループの特性に合わせた取り組みに役立てられた。またボランティア連絡協議会では、はたちの集いでボランティア啓発活動や災害時の研修会等を開催し、活動者のスキルアップに役立てられた。 			
(3)	当事者活動への支援	取組項目	④
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 共同募金配分金事業では、児童・青少年、母子・父子福祉事業において、団体の相互交流だけでなく、子どもたちや地域住民とのつながりを深める貴重な財源として役立てられた。歳末たすけあい配分金事業では、民生委員・児童委員が把握している生活課題を抱えた世帯や障がい者施設、民間福祉団体に配分し、様々な福祉事業に役立てられた。また繰越金を活用し、子ども食堂などを通じて、未支援の生活困窮世帯へ食材を提供し相談窓口につなげる事業を行った。 			

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	ボランティア講座の開催	取組項目	②
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 筆談、手話、点字などの講座を開催するとともに、地域福祉活動の担い手となるようフォローアップ研修を開催し、人材発掘と育成に取り組んだ。 			

4	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 本会の活動をより多くの方に知ってもらえるよう社協広報誌「ぼけっと」の発行に共同募金配分金と歳末たすけあい配分金を活用した。また、新たな福祉人材の確保と育成のため、「ボランティア情報にじ」の発行に共同募金配分金を活用した。また、LINEやインスタグラムを使い、情報を発信。新たな層への働きかけをおこなった。 			

5	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③
【実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 社協広報誌「ぼけっと」に、配分先の組織や団体の「ありがとうメッセージ」を掲載し、どのように配分金が使われているか地域住民にわかるよう紙面を工夫し、広報の充実を図った。また、「ボランティア情報にじ」においてもボランティア活動等広報し、啓発活動に取り組んだ。 			

B7	地域福祉事業	決算科目	基金事業
----	--------	------	------

主な事業内容・成果
<p>① 基金の利息をもって、地域福祉事業やボランティア活動センター事業の推進、交通遺児への入学祝い等の給付事業に取り組んだ。 また、地区福祉委員会と連携した施設整備等に取り組み、地域福祉活動拠点としての機能強化を図った。</p> <p>② 利息の低迷により買換を控えていた公債の購入を行い、事業活動に必要な資金の確保を行った。</p>

今後の課題
<p>① 現在運用している基金以外にも基金が1つでも増えていくよう市民に情報提供を行い、多様化する福祉課題に対応できる資金の確保を進めることが必要。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	10,685,454	123,640,766	112,955,312
受取利息配当金収入	661,136	2,766	△ 658,370
基金積立資産取崩収入	0	83,000,000	83,000,000
積立資産取崩収入	10,024,318	40,638,000	30,613,682
その他	0	0	0
(支 出)	103,564,022	123,827,743	20,263,721
事業費	391,668	187,256	△ 204,412
基金積立資産支出	0	83,000,000	83,000,000
積立資産支出	102,419,318	40,002,289	△ 62,417,029
区分間繰入金支出	753,036	638,198	△ 114,838
その他	0	0	0
			0
			0

当期資金収支差額	△ 92,878,568	△ 186,977	92,691,591
前期末資金収支残高	98,542,055	5,663,487	△ 92,878,568
当期末支払資金残高	5,663,487	5,476,510	△ 186,977

主な増減理由
<p>① 基金積立資産取崩収入及び積立資産取崩収入は、有価証券購入のための定期預金の取り崩しによる増</p> <p>② 基金積立資産支出及び積立資産支出は、有価証券購入による増</p>

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	
<p>【実績と効果】 債券市場の動向について専門機関と情報交換し、金利が上昇し事業運営に必要な資金の確保が見込めたため公債を購入した。</p>			

その他

事業項目①田中福祉基金事業の推進		
【実績と成果】		
<p>・ 高齢者及び視聴覚障害者に対する事業経費に充てる目的の基金のため、利息をボランティア活動推進の財源に充当した。</p> <p>(令和5年度は、公債利息は無く定期預金利息のみ充当した。)</p>		
事業経理区分	充当額	事業内容
ボランティア活動センター事業	198円	ボランティア講座の開催等

事業項目 ②谷口交通遺児基金事業の推進

【実績と成果】

- ・ 川西市の交通政策課と連携し交通遺児に対し入学祝金の給付と修学給付金を支給した。
(入学祝金 2世帯中・高・各1名 145,000円 修学給付金 2世帯2名 40,000円)
大学等進学時への支援も漏れなくできるよう、情報提供に取り組んだ。

取組項目 ③一井基金事業の推進

【実績と成果】

- ・ 地域福祉活動拠点の整備等に充てることを目的とした基金のため、利息及び原資の一部を地域福祉活動の財源に充当した。

事業経理区分	充当額	事業内容
民家活用事業	638,000円	一井サロン・大和サロンの運営等

B8	地域福祉事業	決算科目	資金貸付事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果

貸付事業は兵庫県社会福祉協議会からの受託事業として、生活が一時的に困窮している世帯からの相談に応じ、生活困窮者自立支援機関や行政、民生委員・児童委員、地域との連携により必要な支援につなげた。

ほっとかへんネットワーク事業として、新型コロナウイルス感染症の影響による生活福祉資金特例貸付の償還が遅れている人の生活状況の確認と今後の支援につなげるために電話でのアウトリーチを実施した。

- 今後の課題**
- ① 経済的な困窮、もしくは様々な生活上の困りごとが想定される償還困難な世帯への見守り支援等。
 - ② 償還免除者に対してもアウトリーチを実施し、社会的孤立・排除の解消・予防を図る。
 - ③ 外国人借受人の社会的孤立・排除の解消と予防を図る。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収入)	9,296,325	14,644,861	5,348,536
経常経費補助金収入	3,072,128	3,140,664	68,536
助成金収入	2,310,000	2,240,000	△ 70,000
受託金収入	3,914,197	9,264,197	5,350,000
その他	0	0	0
(支出)	9,316,856	14,647,039	5,330,183
人件費	7,630,488	9,897,116	2,266,628
事業費	814,078	415,484	△ 398,594
事務費	645,406	401,165	△ 244,241
その他	226,884	3,933,274	3,706,390
予備費	0	0	0
当期資金収支差額	△ 20,531	△ 2,178	18,353
前期末資金収支残高	93,009	72,478	△ 20,531
当期末支払資金残高	72,478	70,300	△ 2,178

主な増減理由

ほっとかへんネットワークの配置による人件費の増。

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

【実績と成果】

- ・ 相談者の支援ニーズを聞き取り、貸付に至らなかった場合においても、自立相談支援機関、行政等の関係機関の担当者と複数回協議をし、情報提供を適切に行うよう取り組んだ。
- ・ 教育支援資金に関しては、一旦長期滞納となると借受人の償還意欲も大きく低下してしまうので、初期滞納者にできるかぎり早い段階で電話や文書等で償還を促した。
- ・ 新型コロナウイルス特例貸付を利用した世帯で、償還が遅れている世帯に対し電話でのアウトリーチを実施し、状況把握に務めた。

研修会・連絡会への参加

研修会・連絡会への参加	開催日時	参加人数
特例貸付の償還事務に関する説明会	5月19日	2名
生活福祉資金貸付事業基礎研修会	6月16日	2名
令和5年度 相談支援スキルアップ研修会(1回目)	7月14日	3名
令和5年度 「社協における生活困窮者支援体制強化事業」情報交換会	8月2日	3名
第1回阪神間ほっとかへんネットワーク情報交換会	8月11日	1名
令和5年度 相談支援スキルアップ研修会(2回目)	9月8日	3名
令和5年度 相談支援スキルアップ研修会(3回目)	10月13日	1名
生活福祉資金業務システム市区町社協連携対応に関する説明会	9月14日	3名
令和5年度「社協における生活困窮者支援体制強化事業」第2回情報交換会	1月24日	1名
生活福祉資金業務システム市区町社協連携対応に関する説明会	3月1日	4名
令和5年度 生活福祉資金担当者会議	3月12日	3名

相談件数・貸付決定件数推移



事業項目	生活福祉資金貸付事業		生活福祉資金等相談内訳				
	相談・資金の種類	相談件数(件)	相談延べ件数(件)	申請件数(件)	決定件数(件)	貸付額(単位:円)	
						R4年度	R5年度
教育支援資金	99	1,120	16	15	18,758,400	13,233,000	
教育支援費	51	588	9	8	12,347,600	9,738,000	
就学支度費	48	532	7	7	641,080	3,495,000	
福祉資金	93	243	2	2	61,820,000	176,000	
福祉費	37	153	2	2	60,000	176,000	
緊急小口資金	56	90	0	0	61,760,000	0	
総合支援資金	44	70	0	0	187,340,000	0	
生活支援費	44	70	0	0	187,340,000	0	
住宅入居費	0	0	0	0	0	0	
一時生活再建費	0	0	0	0	0	0	
不動産担保型生活福祉資金	1	1	0	0	0	0	
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0	0	
その他の相談 (生活費・債務費等)	61	71	0	0	0	0	
合計	298	1,505	18	17	267,918,400	13,409,000	

B9	地域福祉事業	決算科目	善意銀行事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>寄付者の意向をもとに必要な世帯や団体等の福祉事業に対して寄付を活用した支援を行った。市と連携して行う子どもの居場所(こども食堂・学習支援)への支援が令和5年度から開始され、支援が拡充された。</p> <p>権利擁護事業等の充実のため大口寄付をいただくことができた。法人として権利擁護等の取り組みにどのように活用していくか検討する。</p>

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	4,026,724	11,048,642	7,021,918
寄附金収入	4,026,591	9,124,779	5,098,188
経常経費補助金収入	133	528,800	528,667
その他	133	1,395,063	1,394,930
(支 出)	3,990,883	11,563,539	7,572,656
給付金支出	2,145,662	2,267,864	122,202
助成金支出	1,040,425	948,314	△ 92,111
区分間繰入金支出	804,663	8,347,255	7,542,592
積立資産支出	133	106	△ 27

今後の課題
<p>① 子ども食堂や学習支援を実施する団体が今後も増加していくと考えられるため、市の補助金及び寄付金をどのように有効活用するか検討が必要である。</p> <p>② 生活困窮者支援の枠組み検討を進める必要がある。</p>

当期資金収支差額	35,841	△ 514,897	△ 550,738
前期末資金収支残高	1,678,711	1,714,552	35,841
当期末支払資金残高	1,714,552	1,199,655	△ 514,897

主な増減理由
<p>① 大口寄付、積立金取り崩しによる収入の増</p> <p>② 大口寄付の法人への操出しによる支出の増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報誌などの充実	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 広報紙の紙面を見やすく変更すると共に、ホームページにもわかりやすく事業実施状況を掲載した。その効果か社会福祉全般への寄付である一般寄付金は7%増加した。また、大口の指定寄付が権利擁護支援にあり、その他、児童福祉への指定寄付があった。 			

2	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 就学支援(6件22.5万円)、修学旅行補助(3件10.2万円)、子ども食堂(8件118万円)、学習支援(4件26万円)、移送サポート助成(2件40万円)、大学・専門学校受験料補助(4件12.6万円)ほかの支援を行った。令和5年度から始まった市の子どもの居場所支援は子ども食堂(7件47.4万円)、学習支援(2件5.5万円)を行った。 			

3	ほっとかない・あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題への対応	取組項目	④
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 社会的孤立などの課題に対する善意銀行としての具体的な支援方法の検討を進めることが出来た。今日の生活費がない方への支援について要望がでているので、どのような支援が出来るか検討を進める。 			

B10	地域福祉事業	決算科目	包括的支援体制構築事業
-----	--------	------	-------------

主な事業内容・成果
<p>① 近隣トラブルや社会的孤立等、複合課題ケースに制度の分野にとらわれることなく、課題の軽減や解決に向け対応した。</p> <p>② 社協内の縦割り解消に向け、各担当に包括化推進員を配置し、事例の共有を行い、社協全体で相談を受け、対応できる体制づくりを進めた。</p>

今後の課題
<p>① 相談のあったケースについては対応できたが、まだまだ、地域には相談に結びついていない複合多問題のケースがある。地区福祉委員会や民生委員・児童委員などの地域の方と一緒に実態の把握や支援を行う必要がある。</p> <p>② 制度の狭間により潜在化した悩みを抱える若年層に向けた支援の枠組み作りが必要。</p> <p>③ 少しずつ多機関との連携が取れてきているが、よりよい相談支援を行えるよう、事例検討を重ね、連携の問題点や課題点を抽出し、市における相談支援体制を整えていく必要がある。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	17,766,158	44,004,757	26,238,599
受託金収入	17,766,158	44,004,757	26,238,599
(支 出)	17,766,158	44,004,757	26,238,599
人件費	16,791,954	38,439,760	21,647,806
事業費	24,183	351,723	327,540
事務費	341,557	4,585,856	4,244,299
その他	608,464	627,418	18,954

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、職員異動に伴う増</p> <p>② 人件費の増は、職員異動に伴う増</p> <p>③ 事務費の増は、消費税支払いに伴う増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに事業報告を記載。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手と連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者、子育て、生活困窮者などの複合課題に対し、関係機関と適切な役割分担や連携を図り、当該世帯の自立生活を支えるため伴走型支援を行った。 			

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④

【実績と成果】

- 相談があったゴミ問題や近隣トラブルなど、地域で複合的な課題を抱える世帯に対して、地域住民や関係機関と連携し、アウトリーチを行い、必要な支援のコーディネートを行うことで、課題解決に向けて取り組んだ。また、ひきこもりなど、社会的孤立の課題に対しては、本人や家族の意思尊重を図りながら、伴走型支援を行った。

新規相談件数(令和5年度 54件)

世帯分類(実件数)		相談経路(実件数)			
単身	14	本人	3	民生委員児童委員	4
高齢者のみ	2	家族	6	住民・企業	4
高齢者と独身の子	13	市役所	9	病院	1
母子・父子	7	地域包括支援センター	10	診療所・医院	0
3世代同居	5	健康福祉事務所	0	介護支援専門員	1
2人家族	6	警察	0	相談支援専門員	3
その他	7	社協	4	その他	9

年間相談対応延べ件数(令和5年度 複数対応あり 1,387件)

内容	病気・けが	障がい	介護	金銭管理	ひきこもり	消費者被害	虐待	家族不仲
件数	86	387	62	339	4	0	16	95
内容	養育困難	不登校	家庭内暴力	依存症	地域孤立	住居問題	近隣トラブル	他
件数	60	0	12	11	18	132	133	32

3	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤

- 包括化推進員による会議を随時開催し、法人内で連携しながらケースを共有して、関係機関や地域の連携による支援体制となるよう取り組んだ。
- 複合多問題事案への支援を通じて、関わる専門機関の専門性と役割の確認と、相互の役割の分担と効果的な連携のあり方について、提言と整理を行った。

C	介護保険事業・障害者総合支援事業・地域生活支援事業	決算科目	すこやかサービスセンター

主な事業内容・成果
<p>市内の支援が必要な方々に介護保険及び障害者総合支援法に基づき、訪問や外出支援等によるサービスを提供した。</p> <p>当初課題としていた登録ヘルパーの確保については、新たに5人採用し、3月末退職者を除き、登録ヘルパーは21人になった。</p> <p>収支については、同行援護の利用者は増となったが、訪問介護及び居宅介護において、施設入所4人及びお亡くなりになられた利用者4人と多く、昨年度とは一変して赤字決算となった。</p>

今後の課題
<p>① 人員体制及び経費等の財政面での持続性の確保。</p> <p>② 利用者が在宅において自分らしいより良い生活や暮らしができるよう、従来の制度では賄いきれない案件に関し、制度外サービスの充実を図る。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	37,092,960	35,709,493	△ 1,383,467
介護保険事業収入	15,157,868	13,267,445	△ 1,890,423
障害福祉サービス等事業収入	21,715,092	22,353,048	637,956
その他	220,000	89,000	△ 131,000
(支 出)	36,491,584	37,748,547	1,256,963
人件費	33,802,833	34,992,080	1,189,247
事業費	542,606	367,111	△ 175,495
事務費	1,894,441	2,073,261	178,820
その他	251,704	316,095	64,391

当期資金収支差額	601,376	△ 2,039,054	△ 2,640,430
前期末資金収支残高	10,321,574	10,922,950	601,376
当期末支払資金残高	10,922,950	8,883,896	△ 2,039,054

主な増減理由
<p>① 介護保険事業収入は利用者減に伴う収入減。障害福祉サービス等事業収入は利用者増に伴う収入増</p> <p>② 人件費は、登録ヘルパー派遣増等に伴う増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	2-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月、定例会を開催し、その内2回は外部講師を招いての研修を実施した。定例会の開催により、登録ヘルパーを含む職員間の情報共有及び資質向上に努めている。なお、定例会参加においては、会場又はWEBによる参加のほか、欠席者には資料の配布及び希望者には定例会のDVDを貸し出し、多くの職員が学べる機会を設けた。 			

その他

事業項目	①安定したセンター経営の取組
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不定期に管理者及び3人のサービス提供責任者による前年度との収入実績比較や現状の課題報告及び解決に向けて模索する場を設け、経営の効率化並びにサービスの方向性について確認、共有した。その他、虐待防止・身体拘束、感染症対策及び食中毒予防等の指針や定例会での研修内容について検討した。 	

事業別報告

(1) 介護保険事業

訪問介護・介護予防訪問介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	41	43	45	45	42	41	40	42	40	41	41	40	501
活動時間数	234:55	276:35	296:05	259:55	225:55	232:25	241:50	221:20	209:25	217:55	242:45	222:25	2881:30
活動回数	273	322	344	307	175	280	287	258	258	267	288	274	3,333

(2) 障害者総合支援事業

居宅介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	13	13	12	13	13	14	13	10	11	13	11	11	147
活動時間数	182:20	196:00	167:30	174:25	197:00	190:35	166:40	144:35	163:05	150:40	204:05	163:15	2100:10
活動回数	168	185	144	179	193	184	173	146	159	140	178	158	2,007

同行援護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	10	7	8	8	6	8	8	10	9	9	8	9	100
活動時間数	181:50	161:00	208:10	171:00	174:45	261:10	272:55	265:45	203:35	228:15	191:20	227:45	2547:30
活動回数	55	46	50	50	46	55	62	66	59	54	50	59	652

(3) 地域生活支援事業

移動支援(全身性ガイドヘルプ) 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	4	3	3	4	3	2	4	2	3	4	2	3	37
活動時間数	5:45	6:35	17:05	16:50	14:50	12:10	15:20	12:45	13:30	14:55	9:30	12:20	151:35
活動回数	6	7	16	19	18	16	20	17	18	20	15	16	188

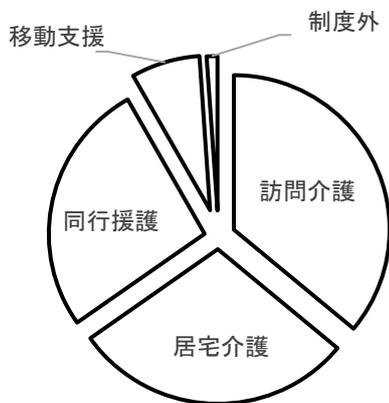
(4) 制度外サービス

制度外訪問介護、制度外介護予防訪問介護 月別利用・サービス提供実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	4	3	3	4	3	2	4	2	3	4	2	3	37
活動時間数	5:45	6:35	17:05	16:50	14:50	12:10	15:20	12:45	13:30	14:55	9:30	12:20	151:35
活動回数	6	7	16	19	18	16	20	17	18	20	15	16	188

(5) 収支状況

収入の内訳



令和5年度実績

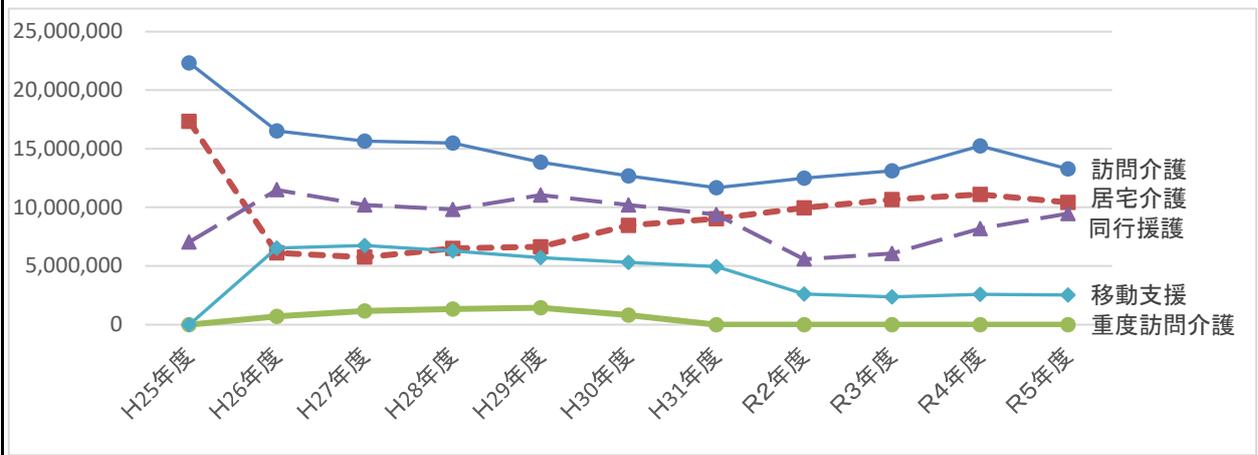
	事業活動収入額	%
訪問介護	12,872,445円	36.1%
居宅介護	10,428,529円	29.2%
同行援護	9,474,119円	26.5%
移動支援	2,539,400円	7.1%
制度外	395,000円	1.1%
計	35,709,493円	100.0%

(6) 年度別活動実績の推移

収支推移及び繰越金

	収入					収入計 ①	支出計 ②	差引額 ①-②	当期末支払資金残高累計 (法人単位)
	介護保険	障害者総合支援事業			地域生活				
	訪問介護	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	移動支援				
H25年度	22,312,564	17,333,368	0	7,039,808	0	46,685,740	49,221,933	△ 2,536,193	30,848,293
H26年度	16,503,885	6,124,748	700,330	11,499,474	6,527,860	41,356,297	55,482,076	△ 14,125,779	16,722,514
H27年度	15,632,550	5,765,258	1,173,075	10,200,322	6,755,998	39,527,203	42,716,160	△ 3,188,957	13,533,557
H28年度	15,481,691	6,509,516	1,317,567	9,824,655	6,288,103	39,421,532	39,573,675	△ 152,143	13,381,414
H29年度	13,851,269	6,625,836	1,451,879	11,049,426	5,708,802	38,687,212	39,917,136	△ 1,229,924	12,151,490
H30年度	12,674,180	8,449,324	803,465	10,209,866	5,291,043	37,427,878	39,273,045	△ 1,845,167	10,306,323
H31年度	11,675,427	9,036,803	0	9,397,073	4,950,162	35,059,465	35,561,383	△ 501,918	9,804,405
R2年度	12,500,388	9,948,730	0	5,602,006	2,618,707	30,669,831	30,994,442	△ 324,611	9,479,794
R3年度	13,110,151	10,666,049	0	6,071,809	2,361,825	32,209,834	32,393,838	△ 184,004	9,295,790
R4年度	15,237,868	11,104,114	0	8,175,128	2,575,850	37,092,960	36,491,584	601,376	9,897,166
R5年度	13,267,445	10,428,529	0	9,474,119	2,539,400	35,709,493	37,748,547	△ 2,039,054	7,858,112

内容



(7) 専門性及び技術の向上をめざした研修等の充実

定例会

日程	内 容	参加人数
4月18日	新年度を迎えて 接遇・プライバシー保護、ホームヘルパー術10か条	21人
5月23日	ヒヤリハット 実例からの事故防止、ヒヤリハット報告	23人
6月20日	熱中症と食中毒、感染症	23人
7月19日	ハラスメント対策	24人
8月29日	倫理・法令遵守	25人
9月12日	認知症サポーター養成講座 (外部講師:川西地域包括支援センター 今北氏)	25人
10月17日	コミュニケーション能力が向上する30の方法(内部講師:高田次長) サービス提供記録の書き方について	25人
11月8日	心肺蘇生法 (外部講師:ベリタス病院救急認定看護師 岡村氏)	23人
12月20日	メンタルケア、事例検討	20人
1月16日	虐待防止・身体拘束について	23人
2月20日	ハラスメント対策、書類の記入方法について	22人
3月26日	年度末、1年を振り返って 来年度の個別研修計画について、書類提出と毎日報告について	18人

内容

(8)川西市介護保険サービス協会

40法人118事業所で組織されている川西市介護保険サービス協会において、本会の事務局として運営を支援し、資質の向上及び事業所間の連携等を目的に、次のような研修会等を開催した。

内容

開催日	内 容	場 所	参加者
5月17日	研修会 内容：介護事業所が注意すべきカスタマーハラスメント対策講座 講師：弁護士法人かなめ 前田氏	キセラ 川西	58 人
11月22日	研修会 内容：介護送迎にこそプロドライバーが必要 講師：アスモ株式会社 尼崎ドライブスクール 磯田氏	キセラ 川西	44 人
2月16日	かわにし・いながわ介護就職フェア 内容：介護事業者14社による予約制の就職面接会 主催：川西市、猪名川町 ハローワーク伊丹 協力：川西市介護保険サービス協会 猪名川町介護保険サービス事業所連絡会	アステ ホール	面接参加者 29 人 採用者 7 人

D	障がい者基幹相談支援センター事業	決算科目	障がい者相談支援事業
---	------------------	------	------------

主な事業内容・成果
① 相談支援体制の三層化(基幹・委託・指定)に対して、担当課と協議を重ねている段階。令和6年4月から相談支援部会において「担当課・委託・基幹」で協議を開始した。
② 自立支援協議会を年4回、定期的に開催できた。日中支援型グループホームの評価会の開催、市内福祉人材確保に向けた作業部会を設置した。
③ 広報活動において、三層化確立の遅れなどが原因で実施できなかった。令和6年度の協議を受けて、市民・関係機関に周知を行う予定。

今後の課題
① 令和6年度上半期で三層の役割等について明確化・共有化をし周知活動を行う。決まった内容については、ルール化を行う必要がある。
② 事例検討について強化を行う。事例検討を通じて、相談支援の強化と地域課題の抽出を行い、地域づくりにつなげていく。
③ 障がい者相談支援体制を確立し、市民・関係機関にしっかりと周知を行う必要がある。
④ 川西市障がい者自立支援協議会を活性化し、地域づくりを行う。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	38,667,025	43,762,972	5,095,947
受託金収入	36,826,652	42,331,496	5,504,844
障害福祉サービス等事業収入	1,832,373	1,431,476	△ 400,897
地域相談支援給付金収入	0	0	0
その他	8,000	0	△ 8,000
			0
(支 出)	38,667,025	43,762,972	5,095,947
人件費	35,710,808	37,015,320	1,304,512
事業費	725,356	735,698	10,342
事務費	1,979,609	5,663,386	3,683,777
その他支出	251,252	348,568	97,316
			0
			0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 夜間勤務手当の必要がなかったことによる人件費支出の減
② 予算作成時に計上していなかった消費税支払いに伴う、事務費の増

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①
相談支援体制の確立が進まなかったが、令和6年度から、①地区担当委託相談支援員が専従になること、②相談支援部会等で協議を行い、基幹相談・地区担当委託・指定特定相談の役割を明確にし、しっかりと周知を関係機関・市民に行うこととなった。			

2	専門機関・団体と連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	地域福祉推進に資する施策の提言	取組項目	⑥
障がい者自立支援協議会を年間4回開催した。日中支援型グループホーム評価会を定例で行った。また、福祉従事者の人材不足の意見を抽出し、作業部会を設置し、課題に取り組むこととなった。また、精神障がい者部会では、短期入所受け入れについてのアンケートを実施することとなった。相談支援部会においては、他市から主任相談支援専門員を講師を依頼し、相談支援体制づくりのための勉強会を行った。			

3	社協らしい、地域福祉との連携による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手との連携・協働による切れ目ない支援体制づくり	取組項目	③
地域福祉担当との連携を意識した取り組みを行った。地域の会議等に参加したり、地域イベントと障害福祉サービス事業所との結び付けを行うことで、相互理解を深める取り組みを行った。			

障がい者基幹相談支援センター事業

	総合相談・専門的相談の実施		
<p>計画相談では対応できない相談に対応した。傾向として、「家族間トラブル」が、家族では解決できず警察が介入したり、相談支援機関に相談をされている。夫婦喧嘩や親子喧嘩が発端となっているケースが多い。本人達は、困り感が少なく近隣の方が困っての相談が多い。他機関連携が必須となっており、純粋な「障がい相談」ではなく、複合ケースとなっている。</p>			

	障がい者相談支援体制強化の取り組み		
<p>市内精神科クリニックと相談支援専門員の連携不足を解消するために、事例検討を含めた連絡会を4回開催し、顔の見える関係性を構築した。他市から主任相談支援専門員を講師で招き、三層化に向けて取り組んだ。また、他市の事例検討会に参加し、自己研鑽にも努めた。来年度は事例検討会を強化していく。</p>			

	地域移行・定着支援		
<p>実績としては、0件であった。活動としては、市外の精神科病院(川西市には入院できる精神科病院がないため)に訪問し、相談員との関係の構築や、地域移行・定着支援を行っていることを周知した。その成果か、令和6年度に地域移行支援を希望される入院患者が数名おられるため、関係づくり等を行っている。</p>			

	権利擁護・虐待防止		
<p>令和5年度の通報実績は、養護者・使用者による虐待通報は23件。施設従事者・子ども関係の通報は9件。合計32件の通報となっている。夫婦間、親子間のトラブルから警察通報に至ったケースが多く、16件あった。関係者も虐待への意識付けができてきたのか、相談も多くなってきている。施設従事者による虐待も8件あり、啓発研修を急遽切り替えて、グループホームに訪問し、実際に支援されている支援員に対して研修を行った。</p>			

	障がい者就労支援		
<p>川西市では、初めてとなる「就労系サービス事業所説明会」をキセラ川西 文化棟 大会議室で開催した。市内外の利用者や関係機関から多数参加いただいた。また、こちらも初めての試みで、「市内就労系サービス事業所リーフレット」を作成中。令和6年度には、関係機関に向けて配布する予定。</p>			

E1	障がい者施設	決算科目	小戸作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>個別面談や担当者会議などで本人の希望や状況を把握し、利用者主体の計画書に沿って支援を行った。年度末アンケート、給食の嗜好・摂取調査を行い、栄養バランスを考えた給食を提供した。週1回のバイタルチェック、各月ごとの内科検診(年2回尿検査)、神経科相談、年1回の健康診断を実施し、利用者の健康管理を行った。トライやる・ウィークなど実習や見学の受け入れの他、敷地内でのダイエーの移動販売や地域の清掃活動を開始し、地域とのつながりを積極的に試みた。</p> <p>就労継続支援B型は5月より本人の希望に沿って移行をはじめ、10月には大きな混乱もなく川西作業所と合併することができた。生活介護は10月より重度障害者支援に力を入れ、個々の特性に合わせた環境づくりに取り組んだ。生活介護では新規利用者を1人契約に繋げた。新規企業1社と取引を開始した。</p>

今後の課題
<p>①職員の専門性の向上及び重度支援を強化する。</p> <p>②相談窓口としての取り組み、および施設機能を活用する。</p> <p>③職員間での連携、コミュニケーション不足解消のための体制づくりを行う。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	129,736,530	126,297,634	△ 3,438,896
受託金収入	32,634,483	44,947,056	12,312,573
就労支援事業収入	9,959,270	6,236,616	△ 3,722,654
障害福祉サービス等事業収入	85,656,444	74,384,538	△ 11,271,906
その他	1,486,333	729,424	△ 756,909
(支 出)	129,736,530	126,297,634	△ 3,438,896
人件費	103,182,721	104,975,555	1,792,834
事業費	11,953,830	11,080,746	△ 873,084
事務費	3,983,678	3,129,567	△ 854,111
就業支援事業支出	9,959,270	6,236,616	△ 3,722,654
その他	657,031	875,150	218,119

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,898,190	4,898,190	0
当期末支払資金残高	4,898,190	4,898,190	0

主な増減理由
<p>① 受託金収入は、9月末で就労支援B型の廃止に伴う障害福祉サービス等事業収入減のため増</p> <p>② 障害福祉サービス等事業収入は、9月末で就労支援B型の廃止のため減</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①
生活介護事業(定員40人)			
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・面談や担当者会議を行い、ご本人の意思や希望、状況に基づき作成した計画書に沿って支援を行った。 ・強度行動障害のある利用者に対し、見える化タイマーや絵カードなどを使用したことで、それまで活動出来なかった散歩や行事に参加したり、水分摂取制限のある方は時間の見通しが付き、間隔を置いて水分摂取することが出来るようになった。 ・日中活動については、画用紙や折り紙、色を塗った卵の殻を使用して、季節の事柄の貼り絵や各月のカレンダーを作成した。 ・ロングコースの散歩を利用して災害時の避難経路の確認を行い、風船バレーやダンス、タオル体操など、身体を動かすプログラムも取り入れた。 ・キセラ公園の草抜き清掃、猪名川沿いや近隣のゴミ拾いなどの清掃活動を行った。 			

生活介護					(単位:円)	
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	令和4年度	
4月	223,300	14,100	1,200	6,567	5,302	
5月	191,100	10,700	3,581	5,620	4,460	
6月	200,100	10,300	300	5,717	8,512	
7月	259,700	16,900	400	7,420	7,055	
8月	190,800	10,900	200	5,451	6,200	
9月	242,400	16,100	200	6,925	7,535	
10月	193,800	10,600	200	5,537	7,231	
11月	230,600	13,200	500	6,405	8,234	
12月	235,400	15,200	200	6,538	5,228	
1月	264,300	18,000	200	7,341	7,574	
2月	268,200	16,900	200	7,450	8,437	
3月	368,305	24,644	737	10,832	11,166	
年度	2,868,005	14,795	660	6,817	7,245	

(2)	地域の福祉拠点としての取組み	事業項目	②
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・トライやるウィーク・社会福祉士等の体験実習や所内・所外行事(遠足等)におけるボランティアを受け入れた。 ・地域活動をプログラムに取り入れ、地域のゴミ拾いや清掃、市が募集をしていたキセラ公園清掃などを行った。 ・開かれた施設を目指し近隣住民の方に利用していただけるように、ダイエー移動販売を毎週火曜日に開催した。また希望がある利用者に社会体験の場として買い物体験を行った。 			

(3)	福祉施設機能の積極的活用	事業項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業所との連携により新規利用者1人の契約につなげた。また、特別支援学校と連絡を密にし積極的に見学者や実習生を受け入れた。 			

(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①		
就労継続支援B型事業(定員20人)					
【実績と成果】					
<ul style="list-style-type: none"> ・面談や担当者会議を行い、ご本人の意思や希望、状況に基づき作成した計画書に沿って支援を行った。 ・高齢化が進む中で、体力や特性に合わせた作業提供や腰痛予防の体操を行うなど、個別支援を充実させた。 ・作業が落ち込む時期には川西作業所と連携をはかり、工賃向上に努めた。 ・市内のB型事業所連絡会に参加し、工賃向上やサービスの向上、制度について意見交換をすることで他事業所のつながりを深めた。 ・10月より川西作業所と合併するにあたり、月1回会議を開催し情報共有を行った。また利用者一人ひとりと面談をして意向を聞き取り、5月より月2名ずつ、10月には全員移行することが出来た。 					
就労継続支援B型					
(単位:円)					
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	令和4年度
4月	508,600	56,900	1,300	26,768	22,360
5月	476,800	68,600	1,500	28,047	15,265
6月	496,800	64,400	1,700	33,120	20,689
7月	384,300	61,100	800	29,561	24,173
8月	351,700	60,300	800	31,972	23,352
9月	456,322	93,710	2,607	50,702	27,568
10月	10月より川西作業所と合併				26,157
11月					27,657
12月					27,115
1月					23,147
2月					34,157
3月					37,130
年度	2,674,522	67,502	1,451	33,362	25,731

(2)	地域の福祉拠点としての取組み	事業項目	②
【実績と成果】			
・特別支援学校やトライやるウィーク・社会福祉士等の体験実習、所内・所外行事(遠足等)におけるボランティア、市民後見人の見学等を受け入れた。			
(3)	福祉施設機能の積極的活用	事業項目	③
【実績と成果】			
・相談支援事業所と連絡を密に取り合い、ステップアップにつながるように就労継続支援A型事業所や企業への就職情報を聞き取り利用者へ情報提供を行った。			
・合併に向けて作業整理をする際、基幹相談支援センターを通して企業情報を他事業所に提供し、直接作業の説明等も行った。			

(1)在籍状況																																																																																																					
内容	①月別在籍状況 (定員：生活介護 40人、就労継続支援B型 20人※9月末で川西作業所と合併)																																																																																																				
	(単位：人)																																																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生活介護</td> <td>男</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就労継続</td> <td>男</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>45</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>37</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	生活介護	男	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	小計	36	36	36	36	36	36	36	37	37	37	37	就労継続	男	10	10	9	7	6	4						女	9	7	6	6	5	5						小計	19	17	15	13	11	9	0	0	0	0	0	合計	55	53	51	49	47	45	36	37	37	37	37	37
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																									
生活介護	男	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27																																																																																									
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10																																																																																									
	小計	36	36	36	36	36	36	36	37	37	37	37																																																																																									
就労継続	男	10	10	9	7	6	4																																																																																														
	女	9	7	6	6	5	5																																																																																														
	小計	19	17	15	13	11	9	0	0	0	0	0																																																																																									
合計	55	53	51	49	47	45	36	37	37	37	37	37																																																																																									
内容	②年齢別在籍状況(3月31日現在)																																																																																																				
	(単位：人)																																																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>18～20歳</th> <th>21～25歳</th> <th>26～30歳</th> <th>31～35歳</th> <th>36～40歳</th> <th>41～45歳</th> <th>46～50歳</th> <th>51歳以上</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生活介護</td> <td>男</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>		18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上	計	生活介護	男	0	1	3	3	3	10	7	0	27	女	0	0	1	1	3	3	1	1	10	計	0	1	4	4	6	13	8	1	37																																																											
	18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上	計																																																																																												
生活介護	男	0	1	3	3	3	10	7	0	27																																																																																											
	女	0	0	1	1	3	3	1	1	10																																																																																											
	計	0	1	4	4	6	13	8	1	37																																																																																											
内容	(単位：人)																																																																																																				
	<p>生活介護</p> <table border="1"> <caption>生活介護の年齢別在籍状況 (3月31日現在)</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>男</th> <th>女</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～20歳</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>21～25歳</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>26～30歳</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>31～35歳</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>36～40歳</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>41～45歳</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>46～50歳</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>51歳以上</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	男	女	18～20歳	0	0	21～25歳	1	0	26～30歳	3	1	31～35歳	3	1	36～40歳	3	3	41～45歳	10	3	46～50歳	7	1	51歳以上	0	1																																																																									
年齢	男	女																																																																																																			
18～20歳	0	0																																																																																																			
21～25歳	1	0																																																																																																			
26～30歳	3	1																																																																																																			
31～35歳	3	1																																																																																																			
36～40歳	3	3																																																																																																			
41～45歳	10	3																																																																																																			
46～50歳	7	1																																																																																																			
51歳以上	0	1																																																																																																			

③生活介護利用者の障がい程度別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

障がい程度区分	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	6	9	7	5	27
女	0	0	1	4	4	1	10
合計	0	0	7	13	11	6	37

内容

(2)出席状況

利用者の出席率・・・85.3% 年間延出席人数・・・7,462人(生活介護)
 利用者の出席率・・・85.8% 年間延出席人数・・・1,464人(就労継続B 9月まで)

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和4年度
生活介護	在籍者数	36	36	36	36	36	36	37	37	37	37	37	240	241
	所定作業日数	20	20	21	20	20	20	21	20	20	19	19	240	241
	延出席者数	629	629	669	622	628	635	652	612	603	580	591	7,462	7,389
	出席率%	87.3	87.3	88.4	86.3	87.2	88.1	86.2	82.7	81.4	82.5	84.0	85.3	85.7
就労継続	在籍者数	19	17	15	13	11	9						121	241
	所定作業日数	20	20	21	20	20	20						121	241
	延出席者数	342	290	280	220	182	150						1,464	4,069
	出席率%	90.0	85.2	88.8	84.6	82.7	83.3						85.8	86.6

(在籍者数に対する出席率を記載)

内容

(3)関係先企業

下記の各企業より受注を受け、利用者に働くことの喜びを味わっていただくため、仕事の確保に努めた。

- 小杉善(株) (箕面市) …… タオル等のギフトセットや包装(9月末取引中止)
- 金本徳(株) (箕面市) …… " (10月以降川西作業所へ移行)
- ナイガイ(株) (箕面市) …… タオル一本袋入れ、箱の組立(9月末取引終了)
- 那須梱包(株) (西宮市) …… 自動車部品袋入れ
- 林(株) (川西市) …… タオル加工(10月以降川西作業所へ移行)
- (株)エサカサービス (箕面市) …… ファンシーグッズの袋入れ、値付け
- 伊丹加工所 (伊丹市) …… 住宅関連部品の組立
- エムアイケミカル(株) (伊丹市) …… 薬杯検品(9月末取引終了)
- (株)田中製作所 (川西市) …… 照明器具部品
- (有)アフティ (猪名川町) …… 忌避剤の袋詰め(2月新規導入)

内容

E2	障がい者施設	決算科目	川西作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>個別面談や担当者会議に基づき、利用者主体の個別支援計画書を作成し、個々のニーズに沿った支援を提供した。</p> <p>対象者を身体・知的・精神の3障害に広げ、小戸作業所就労継続支援B型と統合した。5月より本人の意向に沿って受け入れをはじめ、10月には大きな混乱もなく合併することができた。それにより契約者数が増え出席率も向上した。</p>

今後の課題
<p>① 個々の障害特性の理解と支援の標準化を図る。</p> <p>② 個々の生活面の情報収集と地域生活に目を向けた他機関連携を図る。</p> <p>③ 職員間の情報共有を強化する。</p> <p>④ 相談支援窓口としての取り組み、および施設機能を活用する。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収入)	57,865,680	68,946,062	11,080,382
受託金収入	11,468,628	1,823,034	△ 9,645,594
就労支援事業収入	12,946,895	15,567,610	2,620,715
障害福祉サービス等事業収入	32,514,322	50,764,038	18,249,716
その他	935,835	791,380	△ 144,455
(支出)	57,865,680	68,946,062	11,080,382
人件費	35,496,242	42,291,062	6,794,820
事業費	6,678,985	8,415,465	1,736,480
事務費	2,437,718	2,128,932	△ 308,786
就業支援事業支出	12,946,895	15,567,610	2,620,715
その他	305,840	542,993	237,153

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	727,933	727,933	0
当期末支払資金残高	727,933	727,933	0

主な増減理由
<p>① 障害福祉サービス等事業収入は、小戸作業所の就労支援B型と合併したため増</p> <p>② 人件費は、小戸作業所の合併に伴い総合職員1人増となったため増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

就労継続支援B型事業(定員40人)

【実績と成果】

個別面談や担当者会議に基づいた個別支援計画を作成し、計画書に沿った支援を提供した。感染症対策を徹底したうえで所外行事(姫路セントラルパーク)・忘年会・新年会(手塚治記念館)・豆まき・花(桜)見散策を実施した。

嗜好調査やリクエストメニューの結果に沿った栄養バランスの取れた献立の給食を提供した。摂取調査を実施し、結果に基づき個々のアドバイスをおこなった。一人ひとりの作業能力や障がい特性に応じた作業や補助具(治具)を提供し生産性の向上を図った。

(単位:円)

	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	令和4年度
4月	948,200	102,000	16,600	45,152	40,638
5月	648,400	61,000	4,600	27,017	37,543
6月	1,089,400	89,100	2,300	41,900	51,236
7月	1,246,100	101,000	13,900	46,152	48,386
8月	1,064,400	85,700	1,700	36,703	48,705
9月	1,095,200	90,400	7,700	36,507	46,281
10月	1,174,500	64,200	2,500	30,115	36,119
11月	1,298,200	75,600	800	33,287	44,081

12月	1,435,800	81,800	1,700	37,784	46,795
1月	1,358,800	72,500	1,500	36,724	47,186
2月	1,328,800	82,700	300	34,968	48,510
3月	1,393,564	85,363	831	35,732	57,578
年度	14,081,364	82,614	4,536	36,837	46,088

(2) 福祉施設機能の積極的活用 事業項目 ③

【実績と成果】

基幹相談支援センターや他事業所と連携を取り、就職希望の方1人障害者合同就職面接会の参加に向けて支援をおこない、一般企業での職場実習を体験することができた。
利用者へ就労継続支援A型事業所や企業への就職情報等を提供し、就労継続支援A型事業所へのステップアップに繋げることができた。

(3) 地域の福祉拠点としての取り組み 事業項目 ②

【実績と成果】

トライやる・ウィークの実習、所外行事(遠足)においてのボランティア、市民後見人の見学等を受け入れた。
フードドライブの地域の中継拠点としての役割を担い、近隣の保育園との関係を深めた。
市内の就B事業所連絡会に参加し他事業所とのつながりを強化した。就労事業所説明会では、本人や保護者をはじめ相談支援事業所や学校関係者にも広く施設について知ってもらうことができた。

(1) 在籍状況

①月別在籍者状況 (定員：40人)

(単位：人)

内容

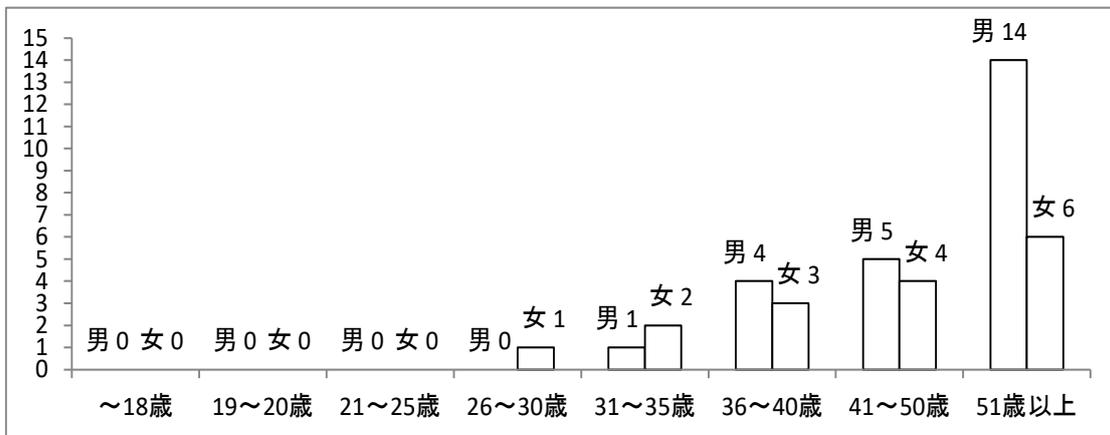
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	16	16	17	19	20	22	25	25	25	24	24	24
女	7	9	10	10	11	11	16	16	16	16	16	16
計	23	25	27	29	31	33	41	41	41	40	40	40

②年齢別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

内容

	～18歳	19～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～50歳	51歳以上	計
男	0	0	0	0	1	4	5	14	24
女	0	0	0	1	2	3	4	6	16
小計	0	0	0	1	3	7	9	20	40



③障がい別在籍状況(3月31日現在)

【身体障害】

(単位：人)

手帳等級		1級	2級	3級	4級	5級	6級	小計	計
視覚障がい	男	0	0	0	0	1	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	
聴覚障がい	男	0	1	1	1	0	0	3	3
	女	0	0	0	0	0	0	0	
肢体不自由	男	2	3	1	1	0	0	7	14
	女	1	3	1	1	0	1	7	
内部障がい	男	0	0	0	1	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	
計	男	2	4	2	3	1	0	12	19
	女	1	3	1	1	0	1	7	

【知的障害】

【精神障害】

	重度	中度	軽度	計	精神障害	計
男	5人	3人	2人	10人	2人	2人
女	3人	5人	1人	9人	0人	0人
計	8人	8人	3人	19人	2人	2人

内容

内容

内容

(2)出席状況

利用者の出席率・・・81.3% 年間延出席人数・・・6,691人

(単位：人)

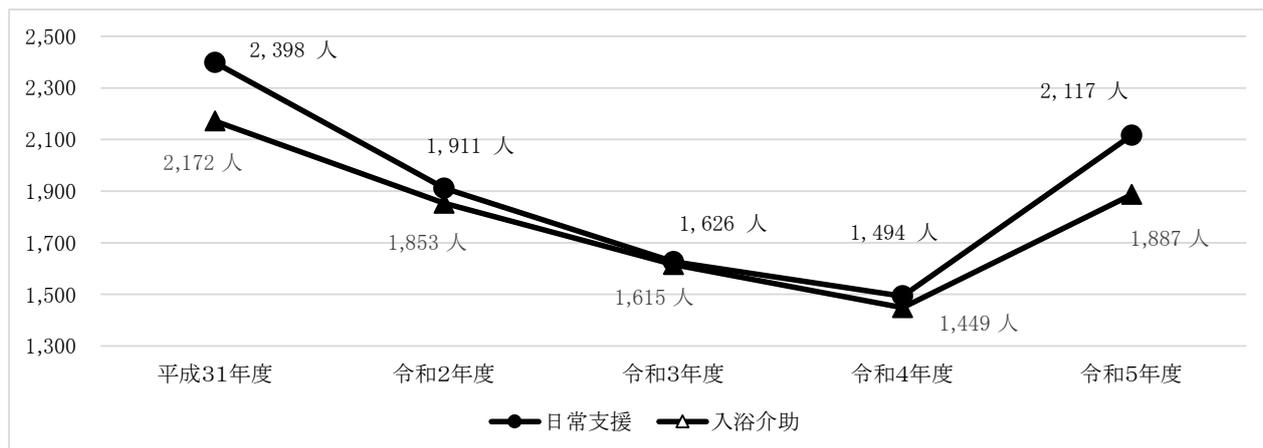
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和4年度
在籍者数	23	25	27	29	31	33	41	41	41	40	40	40	348	348
所定作業日数	20	20	21	20	20	20	21	20	20	19	19	20	240	241
延出席者数	360	399	474	458	509	526	732	685	666	619	624	639	6,691	4,369
出席率 %	78.2	79.8	83.5	78.9	82.0	79.6	85.0	83.5	81.2	81.4	82.1	79.8	81.3	71.5

(3)関係先企業

合併に伴い、利用者の特性や収益性を考え継続困難な作業については整理をおこなった。小戸作業所から引き継いだ作業や新規開拓により、作業量を確保することができた。

積水マテリアルソリューションズ(株)	(大阪市)	建築用養生シート梱包
エムアイケミカル(株)	(伊丹市)	投薬瓶箱詰(9月末取引終了)
林(株)	(川西市)	タオル加工
梶村工業所	(伊丹市)	自動車・機械部品加工
川西市役所	(川西市)	封入・封緘作業
(株)アヌシ	(伊丹市)	生活雑貨加工
那須梱包(株)	(西宮市)	自動車部品袋入れ
(株)田中製作所	(川西市)	照明器具部品加工
金本徳(株)	(箕面市)	タオル加工(10月～取引開始)
(有)アフティ	(猪名川町)	忌避剤の袋詰め(2月新規導入)

○過去5年間の利用の推移



(2) 地域福祉の拠点としての取組み

取組項目

②

・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の視点で控えていたボランティアの受け入れを順次再開した(お話広場、コーラス、ネイルなど)。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目

③

・明峰中、多田中と2校のトライやるウィークの受け入れを行った。
・ソーシャルワーク実習の中での施設見学の依頼に対応した。

(4) 福祉避難所としての役割

取組項目

④

・福祉避難所の備品として発電機を購入した。

F1	障がい児施設	決算科目	川西さくら園
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
<p>① 児童発達支援では、こども一人ひとりの発達状況を正しくとらえ、保護者のニーズを把握しながら、個別支援計画に基づき、他職種によるチームアプローチで支援を実施した。また保護者同伴による療育と分離療育を組み合わせ、親も子も、心身ともに健やかに過ごせるように支援を行った。</p> <p>② 保育所等訪問支援・施設支援・総合相談・相談支援事業を通して、地域のこどもたちや職員への支援・助言を行った。職員に研修会も実施した。</p> <p>③ 職員を地域の会議や健診・親子教室等に派遣したり、公開講座の実施等、センターとしての機能を地域に還元するよう努めた。</p>

今後の課題
<p>① 利用者が減っていく傾向があるなか、多様な特性や障がい、保護者のニーズに対応できる、児童発達支援の充実と、今後の支援体制についての検討が必要である。</p> <p>② 保育所等訪問支援や施設支援等による、地域のこどもたち、職員への支援や助言の充実と、園内職員の育成が必要である。</p> <p>③ 相談支援事業では、相談者が増えるなか、他の事業所や行政とともに、どのように工夫し役割分担をしていくのか、協議していく必要がある</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	208,179,372	225,586,242	17,406,870
受託金収入	57,238,208	87,036,928	29,798,720
障害福祉サービス等事業収入	148,327,350	136,666,519	△ 11,660,831
その他	2,613,814	1,882,795	△ 731,019
			0
			0
(支 出)	208,179,372	225,586,242	17,406,870
人件費	180,081,096	191,711,141	11,630,045
事業費	17,369,473	17,093,682	△ 275,791
事務費	9,782,067	10,432,501	650,434
その他	946,736	6,348,918	5,402,182
			0
			0
当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	16,876,152	16,876,152	0
当期末支払資金残高	16,876,152	16,876,152	0

主な増減理由
① 受託金収入は、人件費支出増による増
② 障害福祉サービス等事業収入は、延通園人数の減少に伴う減
③ 人件費支出は、キャリアアップ等により総合職員が充実したことに伴う増

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援では、利用者の発達状況や特性、ニーズを把握しながら個別支援計画を作成し、その計画に基づいて、多職種によるチームアプローチで利用者の支援を実施した。また、年長・年中児には、保護者との分離療育の頻度を増やし、園児の自立心の発達を促すとともに、保護者の負担軽減や環境整備等の時間として活用していただいた。 感染症等の予防対策を行い、安全・安心に通園できるよう努めた。行事については、新型コロナウイルス感染症感染拡大前と同様に実施できた。 保護者に対しては、保護者同伴通園の利点を生かして日常的な相談に応じるとともに、個別面談・心理相談・ペアレントトレーニング等の保護者研修会の実施等を実施し、保護者支援に努めた。 相談支援や総合相談等地域の利用者には、丁寧に聞き取りを行い、必要な支援・サービスの提供や紹介、関係機関との連携を行った。 			

(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
-----	----------------	------	---

【実績と成果】

- ・ 保育所等訪問支援事業は年間37件、障害児等療育支援事業は在宅支援(地域巡回型)が年間270件、施設支援が年間103件実施し、保育所等就学前施設や小学校・留守家庭児童育成クラブの職員や保健センター等への支援や助言に努めた。また、公開講座を2回実施し、地域の職員の方に参加していただいた。
- ・ 総合相談では、こどもの発達評価をするとともに、保護者のニーズの聞き取りや助言を丁寧に行い、必要に応じて、教育・医療・保健・福祉等と連携をしてサポートを行った。
- ・ 相談支援事業では、医療的ケア児等コーディネーター・強度行動障害支援者を中心として、丁寧に専門性の高い支援の実施に努めた。福祉サービスをご利用になる方への計画相談のほか、計画に結びつかない一般相談や困難事例の対応も行い、行政・教育・医療・保健・福祉・地域等関係機関との連携もさらに深めた。他の相談支援事業所への専門的な指導や助言にも努めた。
- ・ 地域住民のフードドライブ収集場所として、また利用者にも声かけを行い、地域活動拠点機能を担った。

(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
-----	--------------	------	---

【実績と成果】

- ・ 電話による育児相談、総合相談、育児・教育機関への訪問・助言・研修会、公開講座の実施、民生委員・児童委員への研修等を実施した。また、トライやる・ウィークや社会福祉士や保育士の実習生の受け入れを行った。
- ・ 市や町の要観察児親子教室・運動発達相談・就学支援委員会等に職員を派遣し、児童発達支援センターとしての機能を果たした。

(1)入退園・利用状況 (定員：50人)																																																																		
内容	川西さくら園の令和5年度入退園児数は、入園児童19人、退園児童15人であり、3月末日現在では、44人が在籍している。 (単位：人)																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初日在籍者数</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>52</td> <td>57</td> <td>58</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>月末在籍者数</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>52</td> <td>57</td> <td>58</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>入園児数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>退園児数</td> <td>0</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	初日在籍者数	41	42	44	44	48	49	50	50	52	57	58	59	月末在籍者数	41	42	44	44	48	49	50	50	52	57	58	44	入園児数	1	1	2	0	4	1	1	0	2	5	1	1	退園児数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																					
	初日在籍者数	41	42	44	44	48	49	50	50	52	57	58	59																																																					
	月末在籍者数	41	42	44	44	48	49	50	50	52	57	58	44																																																					
	入園児数	1	1	2	0	4	1	1	0	2	5	1	1																																																					
退園児数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15																																																						

(2)出席状況																																								
内容	開園日数は231日、川西さくら園の出席率は定員50名に対し63.9%となり、令和4年度より11%減となった。 (単位：人)																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開園日数</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>延通園人数</td> <td>519</td> <td>606</td> <td>630</td> <td>606</td> <td>539</td> <td>662</td> <td>710</td> <td>617</td> <td>601</td> <td>615</td> <td>682</td> <td>602</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	開園日数	18	20	21	20	18	20	21	20	19	18	19	17	延通園人数	519	606	630	606	539	662	710	617	601	615	682	602
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																											
	開園日数	18	20	21	20	18	20	21	20	19	18	19	17																											
延通園人数	519	606	630	606	539	662	710	617	601	615	682	602																												
<table border="1"> <caption>延べ通園児数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延べ通園児数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年度</td> <td>7,581</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>9,418</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>9,407</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>8,680</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>7,389</td> </tr> </tbody> </table>	年度	延べ通園児数	平成31年度	7,581	令和2年度	9,418	令和3年度	9,407	令和4年度	8,680	令和5年度	7,389																												
年度	延べ通園児数																																							
平成31年度	7,581																																							
令和2年度	9,418																																							
令和3年度	9,407																																							
令和4年度	8,680																																							
令和5年度	7,389																																							

(3)日常生活動作別状況(3月1日現在)									
内容	①移動								
	(単位：人)								
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	ねたきり	0	1	0	0	1	1	2	5
	ねがえり可	0	2	0	0	0	0	0	2
	はいはい	0	0	0	0	1	0	0	1
	つたい歩き	0	0	1	0	0	0	1	2
	独歩	0	1	7	5	15	10	11	49
	計	0	4	8	5	17	11	14	59
	内容	②食事							
(単位：人)									
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
全介助		0	4	7	1	2	1	2	17
一部介助		0	0	1	4	14	10	10	39
自立	0	0	0	0	1	0	2	3	
計	0	4	8	5	17	11	14	59	
内容	③着脱衣								
	(単位：人)								
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	全介助	0	4	8	2	2	1	2	19
	一部介助	0	0	0	3	14	10	10	37
自立	0	0	0	0	1	0	2	3	
計	0	4	8	5	17	11	14	59	
内容	④排泄								
	(単位：人)								
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	全介助予告無	0	4	8	2	6	2	2	24
	全介助予告有	0	0	0	3	0	0	0	3
	一部介助	0	0	0	0	11	9	10	30
自立	0	0	0	0	0	0	2	2	
計	0	4	8	5	17	11	14	59	
内容	⑤会話								
	(単位：人)								
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	発声なし	0	1	0	0	1	0	1	3
	発声あり	0	3	5	3	4	4	3	22
	喃語	0	0	0	0	2	2	3	7
	数語程度	0	0	3	2	8	4	4	21
	わかりにくい	0	0	0	0	0	0	1	1
会話可	0	0	0	0	2	1	2	5	
計	0	4	8	5	17	11	14	59	
(4)病類別・診断別・性別・障がい度別状況(3月1日現在)									
内容	①年齢別・性別状況								
	(単位：人)								
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
	男	0	1	7	4	13	8	7	40
	女	0	2	2	1	4	3	7	19
計	0	3	9	5	17	11	14	59	

②障がい・障がい度別状況

(単位:人)

	自閉スペクトラム症	ダウン症	発達障がい	脳性まひ	運動発達遅滞	発達遅滞	エフ・スタイン奇形	ウエスト症候群	下肢麻痺	脳室周囲白質軟化症	症候群	ヒルシユスプリング	1P36欠失症候	フラダーウイリー	ターナー症候群	リー脳症	筋ジストロフィー	てんかん	その他	計
軽度	15	2	13	0	1	4	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	41	
中度	8	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	12	
重度	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6	
計	23	2	15	2	1	4	1	2	1	0	1	1	1	1	1	1	0	2	59	

内容

(5)行事報告

実施日	行事名	場所(園外)・内容
4月 21日	保護者研修会	こどもとことば
5月 8~9日	さつまいもの苗うえ	園内畑
11日	保護者研修会	保育で大切にしていること
6月 11日	療育参観日	
7日	保護者研修会	更衣動作について
15日	保護者研修会	就学後の福祉制度等について
21日	保護者研修会	ほめるについて
22日	合同避難訓練	
23日	保護者交流会	
7月 5日	保護者研修会	就学に向けて
7日	なつまつり	
10日	保護者研修会	進路先情報説明会
14日	保護者交流会	
8月 24日	合同水防避難訓練	
9月 5日	療育研修会	
15日	園外療育	
11月20日	保護者研修会	ペアレントトレーニング1・2
22日	保護者交流会	
10月 2日	芝すべり	鳴尾ゴルフ倶楽部
5日	保護者研修会	青年・成人期のために
11・31日	保護者研修会	ペアレントトレーニング3・4
20日	保護者交流会	
29日	うんどうかい	川西北小学校体育館
11月 2・6日	いもほり	
9日	合同避難訓練	
17・29日	保護者研修会	ペアレントトレーニング2-1・2
24・30日	保護者研修会	サポートブック/食事動作
12月 5~14日	おたのしみかい(各クラス)	クリスマス
7日	保護者研修会	修了される方へ
13日	保護者研修会	
1月 12日	保護者交流会	
19日	保護者研修会	こどもとことば2
23日	お買い物散歩(年長児)	
28日	療育参観日	
2月 9・28日	保護者給食試食会	
3月 5~21日	おたのしみかい(各クラス)	クラスのおわかれかい
26日	おわかれかい(修了式)	

内容

その他 お誕生日会、避難訓練

(6) 診察状況								
内容		小児科	精神科	眼科	耳鼻科	歯科	合計	
	診察回数(回)	2	7	2	2	3	16	
	診察延人数(人)	61	60	42	56	72	291	
(7) 外来専門医等による指導								
内容		児童精神科	小児神経科	理学療法	作業療法	言語聴覚	心理	計
	指導回数(回)	12	4	44	2	83	46	191
	延人数(人)	86	6	95	4	204	79	474
(8) 保育実施人数								
内容		個別活動	グループ活動	散歩	個人面談・家庭訪問	交流保育		
	延人数	738	22,635	1,417	170	92		
(9) 訓練実施人数								
内容		理学療法	作業療法	言語聴覚	グループ	姿勢保持具・自助具製作及び修理		
	延人数	262	638	480	0	0		
(10) 看護業務実施人数								
内容		視診	投薬	処置	病院付添	身体計測	検尿	カオスタット
	延人数	6,876	88	332	0	406	40	32
(11) 給食								
内容	①給食数(カッコ内は、アレルギー食を再掲)							
		普通食	刻み食	ミキサー食	合計			
	延食数	6,613(327)	0(0)	6(5)	6,619(332)	食		
内容	②1日当り給食数・1日当り単価							
	1日当り給食数	33.8	食	1日当たりの給食単価	349円			
(12) 来訪者状況(延べ人数)								
内容		視察見学者	ボランティア	実習生	トライやる	その他	合計	
	延人数	12	8	27	17	0	64	

(13)障害児等療育支援事業																																																				
内容	①在宅支援訪問療育等指導事業(県受託契約件数153件) 保健センター等の親子教室や発達相談に職員を派遣・巡回させ、地域の在宅障害児(者)及びその保護者に対して相談・助言等による支援を行った。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>訓練</th> <th>保育</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>13</td> <td>221</td> <td>36</td> <td>270人</td> </tr> </tbody> </table>		訓練	保育	その他	合計	延人数	13	221	36	270人																																									
		訓練	保育	その他	合計																																															
延人数	13	221	36	270人																																																
内容	②施設一般指導事業(県受託契約件数98件) 保育所・こども園・幼稚園・小学校等の職員を対象に、児童とのかかわり方や環境設定等についての相談や助言を行った。実施件数は、令和4年度より、22件減少した。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>訓練</th> <th>保育</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>43</td> <td>60</td> <td>0</td> <td>103人</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5年度の主な施設支援先</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>施設別</th> <th>名</th> <th>称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学校</td> <td>川西市立</td> <td>牧の台小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">(市立・町立) 保育所 こども園</td> <td>川西市立</td> <td>牧の台みどりこども園</td> <td>川西こども園</td> </tr> <tr> <td></td> <td>川西北こども園</td> <td>加茂こども園</td> </tr> <tr> <td></td> <td>川西中央保育所</td> <td>小戸保育所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>川西南保育所</td> <td>多田保育所</td> </tr> <tr> <td>猪名川町立</td> <td>猪名川幼稚園</td> <td>猪名川保育園</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">(民間) 保育所 こども園</td> <td>つくしんぼ保育園</td> <td>山下教会めぐみ園</td> </tr> <tr> <td>けやき坂保育園</td> <td>鶴之荘保育園</td> </tr> <tr> <td>川西共同保育園</td> <td>アイグラン保育園</td> </tr> <tr> <td>あおい宙かわにし</td> <td>認定こども園ひよし</td> </tr> <tr> <td>あい保育園キセラ川西</td> <td>星児園 七夕</td> </tr> <tr> <td>畦野こどもの里保育園</td> <td>えんじえるういっしゅ保育園</td> </tr> <tr> <td>幼稚園</td> <td>川西市立</td> <td>東谷幼稚園</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>川西市立</td> <td>川西養護学校</td> </tr> </tbody> </table>		訓練	保育	その他	合計	延人数	43	60	0	103人	施設別	名	称	小学校	川西市立	牧の台小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校	(市立・町立) 保育所 こども園	川西市立	牧の台みどりこども園	川西こども園		川西北こども園	加茂こども園		川西中央保育所	小戸保育所		川西南保育所	多田保育所	猪名川町立	猪名川幼稚園	猪名川保育園	(民間) 保育所 こども園	つくしんぼ保育園	山下教会めぐみ園	けやき坂保育園	鶴之荘保育園	川西共同保育園	アイグラン保育園	あおい宙かわにし	認定こども園ひよし	あい保育園キセラ川西	星児園 七夕	畦野こどもの里保育園	えんじえるういっしゅ保育園	幼稚園	川西市立	東谷幼稚園	特別支援学校	川西市立	川西養護学校
		訓練	保育	その他	合計																																															
	延人数	43	60	0	103人																																															
	施設別	名	称																																																	
	小学校	川西市立	牧の台小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校内 留守家庭児童育成クラブ 加茂小学校																																																	
		(市立・町立) 保育所 こども園	川西市立	牧の台みどりこども園	川西こども園																																															
			川西北こども園	加茂こども園																																																
	川西中央保育所		小戸保育所																																																	
	川西南保育所		多田保育所																																																	
猪名川町立	猪名川幼稚園	猪名川保育園																																																		
(民間) 保育所 こども園	つくしんぼ保育園	山下教会めぐみ園																																																		
	けやき坂保育園	鶴之荘保育園																																																		
	川西共同保育園	アイグラン保育園																																																		
	あおい宙かわにし	認定こども園ひよし																																																		
	あい保育園キセラ川西	星児園 七夕																																																		
	畦野こどもの里保育園	えんじえるういっしゅ保育園																																																		
幼稚園	川西市立	東谷幼稚園																																																		
特別支援学校	川西市立	川西養護学校																																																		
(14)相談支援																																																				
内容	①相談・支援利用者の状況 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>障がい児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①福祉サービスの利用援助</td> <td>6,058</td> </tr> <tr> <td>②社会資源を活用するための支援</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>③社会生活力を高めるための支援</td> <td>1,302</td> </tr> <tr> <td>④ピアカウンセリング</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>⑤権利擁護のために必要な援助</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>⑥専門機関の紹介と連絡調整</td> <td>9,767</td> </tr> <tr> <td>⑦障害程度認定区分による調査</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>⑧サービス等利用計画の作成・管理</td> <td>1,785</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,013</td> </tr> </tbody> </table>	項目	障がい児	①福祉サービスの利用援助	6,058	②社会資源を活用するための支援	96	③社会生活力を高めるための支援	1,302	④ピアカウンセリング	1	⑤権利擁護のために必要な援助	4	⑥専門機関の紹介と連絡調整	9,767	⑦障害程度認定区分による調査	0	⑧サービス等利用計画の作成・管理	1,785	合計	19,013																															
	項目	障がい児																																																		
	①福祉サービスの利用援助	6,058																																																		
	②社会資源を活用するための支援	96																																																		
	③社会生活力を高めるための支援	1,302																																																		
	④ピアカウンセリング	1																																																		
	⑤権利擁護のために必要な援助	4																																																		
	⑥専門機関の紹介と連絡調整	9,767																																																		
	⑦障害程度認定区分による調査	0																																																		
	⑧サービス等利用計画の作成・管理	1,785																																																		
合計	19,013																																																			

内容	②相談方法													
	電話相談		13,729											
	FAX・メール相談		111											
	来所相談		1,211											
	訪問相談(施設訪問も含む)		1,796											
	その他		381											
合 計		17,228												
内容	③実相談者数													
	男 性		3,285											
	女 性		1,242											
	不 明		0											
	合 計		4,527											
内容	④障がい度別相談状況													
	障がい度		男性	女性	合計									
	療育手帳 A		998	428	1,426									
	療育手帳 B1		637	206	843									
	療育手帳 B2		3,894	1,699	5,593									
	非所持者		6,751	2,614	9,365									
	不明者		0	1	1									
合 計		12,280	4,948	17,228										
(15) 保育所等訪問支援														
内容	<p>保育士・専門職が、保育所・小学校を訪問し、訪問先の先生方と調整しながら、対象児童が集団生活や環境に適応できるよう支援した。具体的には、他児との関わり方、児への伝え方、学習の取り組み方、行事の取り組み方等を助言した。令和4年度末、卒園等で全員終了したが、令和5年度に6名が新規登録をした。令和4年度より、3件、実施件数が減少した。</p>													
	①面談・訪問件数													
	(単位:人)													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	面談	0	0	0	2	1	1	1	0	0	1	0	1	7
	訪問	0	0	0	2	1	3	4	4	5	6	6	6	37
内容	②訪問場所													
	小学校	川西小学校・牧の台小学校内留守家庭児童育成クラブ												
保育園	多田保育所・中央保育所・牧の台みどりこども園・川西こども園													

F2	障がい児施設	決算科目	さくらんぼ
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
<p>① 令和5年10月、実態に合わせ利用定員を20名から10名に見直した。見直し後、出席率は安定した。</p> <p>② 全利用児の保護者を対象としたペアレントトレーニング、定期的に個別面談を実施するなど保護者支援に力を入れた。</p> <p>③ 児童発達支援では親子活動として親子制作の実施、4歳児・5歳児を対象とした買い物学習に取り組んだ。放課後等デイサービスでは制作活動や買い物学習に取り組んだ。</p>

今後の課題
<p>① 利用者が減少傾向にあるなか、障がい特性の多様化、増大する保護者ニーズに対応できる、児童発達支援及び放課後等デイサービスの充実と今後の支援体制に向けての検討が必要である。</p>

	令和4年度	令和5年度	増減
(収入)	29,766,005	29,263,793	△ 502,212
障害福祉サービス等事業収入	29,507,005	24,522,226	△ 4,984,779
その他	259,000	4,741,567	4,482,567
			0
			0
			0
(支出)	29,766,005	29,263,793	△ 502,212
人件費	26,247,685	28,048,321	1,800,636
事業費	888,434	403,301	△ 485,133
事務費	1,193,389	623,279	△ 570,110
その他	1,436,497	188,892	△ 1,247,605
			0
			0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
<p>① 障害福祉サービス等事業収入は、利用者数の減少により減となり、その他収入は、収入減に伴う川西さくら園からの繰入れによる増</p> <p>② 人件費支出は、前年度欠員だった訓練職員の採用等により増</p>

令和5年度事業報告

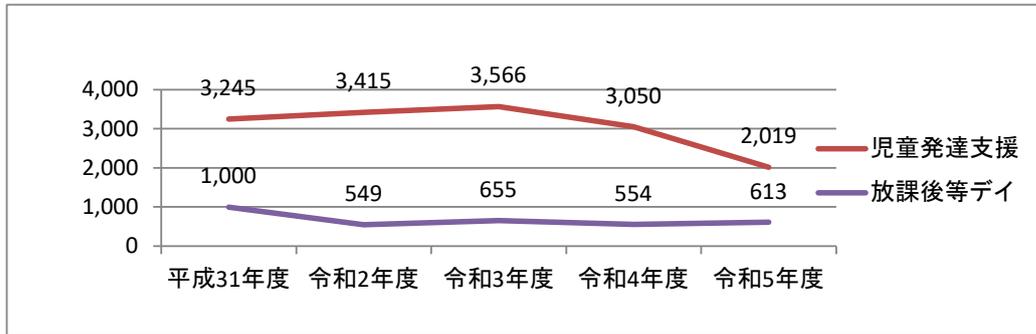
※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>4月～9月 児童発達支援(20名)・放課後等デイサービス(10名) 合計20名</p> <p>10月～3月 児童発達支援(10名)・放課後等デイサービス(10名) 合計10名</p> <p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用児一人一人の発達段階を評価し個別支援計画に基づいた支援が実施できるよう体系的にプログラムを作成した。 日常のお子さんの様子を共通理解することでより具体的な支援に繋がられるよう保護者面談を充実させた。また、公認心理士による発達検査や心理相談も継続実施した。 児童発達支援では、親子活動として親子制作を利用児のごきょうだいさんも一緒に取り組んだ。また、社会体験学習として4歳児・5歳児を対象に初めて買い物学習に取り組んだ。放課後等デイサービスでは、買い物学習を通してルールやマナーを学ぶ体験や制作活動に取り組んだ。 			
(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健センターや病院等から療育が必要と紹介されたお子さんの受け入れを行った。 特別支援教育保育相談連携会議や5歳児発達相談へ職員の派遣を行い事業所の機能を地域に還元した。 利用児が地域で生活する上で困りごとのないよう所属園に出向き連携することで支援に繋がった。 			

(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
【実績と成果】			
<ul style="list-style-type: none"> 全利用児の保護者を対象としペアレントトレーニングを実施した。基礎的な内容と応用編を実施することで保護者同士の繋がりが見受けられた。 			

(1)入退園・利用状況 (定員：児童発達支援 20名、放課後等デイサービス 10名 合計20名)														
内容	児童発達支援 (単位:人)													
	初日在籍者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	月末在籍者数	58	52	53	55	55	53	51	52	53	51	51	49	633
	登録者数	52	53	55	55	53	51	52	53	51	51	49	43	618
	解除者数	2	4	2	2	0	1	1	1	1	1	0	0	15
	解除者数	8	3	0	2	2	3	0	0	3	1	2	6	30
	放課後等デイサービス (単位:人)													
	初日在籍者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	月末在籍者数	21	28	28	30	29	29	29	28	28	28	27	27	332
	登録者数	28	28	30	29	29	29	28	28	28	27	27	19	330
解除者数	7	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
解除者数	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	8	12	

(2)出席状況														
内容	児童発達支援(開所日数234日、1日平均出席者は8.6人) (単位:人)													
	開所日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	延利用人数	20	20	21	20	18	20	21	20	19	19	19	17	234
	1日平均利用人数	162	185	181	179	155	170	177	171	162	161	170	146	2,019
	1日平均利用人数	8.1	9.2	8.6	8.9	8.6	8.5	8.4	8.5	8.5	8.4	8.9	8.5	8.6
	放課後等デイサービス(開所日数234日、1日平均出席者は2.6人) (単位:人)													
	開所日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	延利用人数	20	20	21	20	18	20	21	20	19	19	19	17	234
	1日平均利用人数	52	53	56	51	51	54	52	51	49	47	47	50	613
	1日平均利用人数	2.6	2.6	2.6	2.5	2.8	2.7	2.4	2.5	2.5	2.4	2.4	2.9	2.6



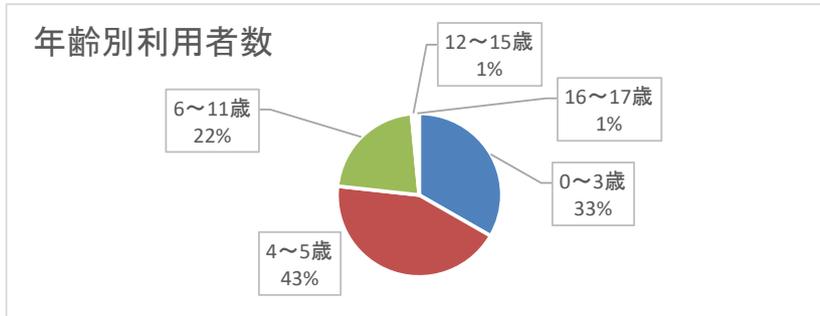
(3) 延利用者年齢別・性別状況

(単位:人)

内容

未就学(児童発達支援)		学齢児童以上(放課後等デイサービス)				計
0～3歳	4～5歳	6～11歳	12～15歳	16～17歳		
男	655	652	385	0	11	1,703
女	223	489	188	19	10	929
計	878	1,141	573	19	21	2,632

内容



(4) 事業所内相談

(単位:人)

内訳

児童発達支援			
	個別	グループ	計
件数	111	96	207

放課後等デイサービス			
	個別	グループ	計
件数	36	0	36

(5) 相談別状況

(単位:人)

内訳

児童発達支援					
	さくらんぼの利用について	子どもの対応について (こども園・幼稚園)	子どもの対応について (保育所・保育園)	その他	計
件数	15	5	3	385	408

放課後等デイサービス					
	さくらんぼの利用について	子どもの対応について (学校)	子どもの対応について (学校以外)	その他	計
件数	3	2	1	54	60

(6) 家庭・関係機関連携

(単位:人)

内訳

児童発達支援					
	家庭連携	関係機関 (こども園・保育園)	関係機関 (保育所・保育園)	その他	計
件数	0	4	4	0	8

放課後等デイサービス					
	家庭連携	関係機関 (学校)	関係機関 (学校以外)	その他	計
件数	0	0	0	0	0

(7)行事報告

実施日	行事名	場所(園外)・内容
4月3日～7日	保護者説明会(児童発達支援)	講座室
4月3日～7日	保護者説明会(放課後等デイサービス)	ロビー
5月24日	ペアレントトレーニング(午後水G/児童発達支援)	講座室
6月1日・15日・29日	ペアレントトレーニング(午後木G/児童発達支援)	講座室
6月7日・21日	ペアレントトレーニング(午後水G/児童発達支援)	講座室
6月9日・23日	ペアレントトレーニング(午前水・金G/児童発達支援)	講座室
7月5日・19日	ペアレントトレーニング(午後水G/児童発達支援)	講座室
7月6日・20日	ペアレントトレーニング(午前火・木G/児童発達支援)	講座室
7月7日・21日	ペアレントトレーニング(午前水・金G/児童発達支援)	講座室
7月13日・27日	ペアレントトレーニング(午後木G/児童発達支援)	講座室
7月11日・12日	サポートファイル作成・保護者交流会(午前G/児童発達支援)	講座室
7月18日・20日	サポートファイル作成・保護者交流会(午後G/児童発達支援)	講座室
8月2日	サポートファイル作成・保護者交流会(午後G/児童発達支援)	講座室
8月3日・17日・31日	ペアレントトレーニング(午前火・木G/児童発達支援)	講座室
8月4日	ペアレントトレーニング(午前水・金G/児童発達支援)	講座室
8月8日・9日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
8月17日・18日・21日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
9月28日	ペアレントトレーニング(午後木G/児童発達支援)	講座室
10月2日・16日・30日	ペアレントトレーニング(午後月G/児童発達支援)	講座室
10月10日・24日	ペアレントトレーニング(午後火G/児童発達支援)	講座室
10月12日・26日	ペアレントトレーニング(午後木G/児童発達支援)	講座室
11月7日・21日	ペアレントトレーニング(午後火G/児童発達支援)	講座室
11月9日・30日	ペアレントトレーニング(午後木G/児童発達支援)	講座室
11月13日	ペアレントトレーニング(午後月G/児童発達支援)	講座室
11月14日・17日・20日	保護者説明会(年中児対象/児童発達支援)	講座室
11月14日・17日・21日	保護者説明会(年長児対象/児童発達支援)	講座室
12月4日	ペアレントトレーニング(午後月G/児童発達支援)	講座室
12月5日	ペアレントトレーニング(午後火G/児童発達支援)	講座室
12月11日	ペアレントトレーニング(保護者交流会)	保育室
12月11日～15日	事業所評価記入(児童発達支援)	講座室
12月11日～15日	事業所評価記入(放課後等デイサービス)	ロビー
12月11日～15日	お楽しみ会(児童発達支援)	保育室
12月15日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
12月18日～22日	親子活動(親子制作/児童発達支援)	保育室
12月18日～21日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
1月22日～26日	アンケート記入(児童発達支援)	講座室
1月22日～26日	アンケート記入(放課後等デイサービス)	ロビー
2月5日・19日・26日	ペアレントトレーニング(午後月G/児童発達支援)	講座室
2月13日・20日・27日	ペアレントトレーニング(午後火G/児童発達支援)	講座室
2月14日・28日	ペアレントトレーニング(午後水・木G/児童発達支援)	講座室
2月9日・16日	ペアレントトレーニング(午後金G/児童発達支援)	講座室
3月1日	ペアレントトレーニング(午後金G/児童発達支援)	講座室
3月4日～8日	制作活動(放課後等デイサービス)	保育室
3月6日	ペアレントトレーニング(午後水・木G/児童発達支援)	講座室
3月11日～15日	親子活動(親子制作/児童発達支援)	保育室
3月13日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
3月18日・19日・22日	買い物学習(児童発達支援)	ローソン
3月21日・22日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
3月25日・26日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン

G	満寿荘	決算科目	満寿荘
---	-----	------	-----

主な事業内容・成果
① 入居者の意思を尊重し一人ひとりの意向に沿った個別支援計画に基づき、いきいきと豊かな生活が送れるよう支援した。また、要介護・要支援の認定を受けた入居者に対して、訪問介護・通所介護・福祉用具貸与などの外部サービスを提供した。
② 新型コロナウイルス感染防止対策の継続により、施設入所者の新型コロナウイルスの感染者は無かった。
③ 新型コロナウイルス感染状況を勘案し、トライやるウィークの受け入れ、クラブ活動再開にあわせボランティアの受け入れを行った。

今後の課題
① 個別支援計画に基づいた地域の社会資源を活用した主体的な生活の支援と、外部サービスの適切な提供が必要である。
② 入居前からのアセスメントと地域に戻ることを意識した支援と地域生活を継続するための支援の充実をはかり、関係機関と連携し社会的自立を促進する必要がある。
③ 災害時における福祉避難所の円滑な運営のため関係機関との連携及び訓練が必要である。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	172,491,609	174,881,436	2,389,827
受託金収入	86,402,837	104,110,407	17,707,570
介護保険事業収入	22,614,001	23,506,549	892,548
老人福祉事業収入	62,772,877	45,843,048	△ 16,929,829
その他	701,894	1,421,432	719,538
			0
(支 出)	172,491,609	174,881,436	2,389,827
人件費	101,007,200	105,063,792	4,056,592
事業費	28,505,736	25,825,962	△ 2,679,774
事務費	42,823,169	43,487,630	664,461
その他	155,504	504,052	348,548

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	18,889,428	18,889,428	0
当期末支払資金残高	18,889,428	18,889,428	0

主な増減理由
① 受託金収入、老人福祉事業収入いずれも入居者減による受託金収入の増、老人福祉事業収入の減
② 人件費は専門職員が総合職員にキャリアアップしたための増
③ 事業費は光熱水道費の高騰幅が小さかったこと及び入居者数減による給食費の減

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>養護老人ホーム(50人定員)/特定施設入居者生活介護事業/訪問介護事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者の意思を尊重し、安心していきいきと豊かな生活が送れるよう、個別支援計画をもとに入居者への支援を行いました。要介護・要支援の認定を受けた入居者に対して、訪問介護・通所介護・福祉用具貸与などの外部サービスを提供しました。また、入居者の権利擁護のため6名の成年後見制度の申し立て支援を行った。 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から控えていたボランティアの受け入れを順次再開した。(コーラス・茶道・生花等)また、嗜好調査や月1回の行事説明会においては入居者の意見・要望を聞き取り、ご当地メニューや選択食を行い喜んでいただいた。 緊急ショートステイとして6名を受け入れ、うち3名は被虐待高齢者だった。セーフティーネットを担う施設として市や関係機関と連携し支援を行った。 入居相談時より関係機関との調整を行い、自立に向けた支援に努めた。 			

(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の相談窓口として相談を受け付けた。 ・ イオン販売の拠点として施設の敷地を開放している。 ・ フードドライブ等のアピールを行った。 			
(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
<ul style="list-style-type: none"> ・ トライやるウィークの受け入れを行った。(明峰中、緑台中) ・ 施設備品(やぐら)を地域に貸し出した。 			
(4)	福祉避難所としての役割	取組項目	④
<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に福祉避難所としての開設要請はなかった。要請があった場合は、市と協議し作成した福祉避難所開設マニュアルに沿って、円滑な運営に取り組む。 ・ 関係機関との福祉避難所の運営訓練が実施できなかった。 			

H1	老人福祉センター	決算科目	一の鳥居老人福祉センター
----	----------	------	--------------

主な事業内容・成果
① 老人福祉センターA型の事業を実施し、個人利用者は、血圧計、電位治療器、マッサージ器、図書を利用され、趣味の会などのグループは、活動拠点として利用され、健康の維持増進、教養の向上に効果を上げた。
② 老人福祉センターを利用することで、高齢者の社会的孤立を防ぎ、定期的な外出の場として機能した。
③ 健康講座・出前講座等を開催、コロナウィルスの5類変更に伴い参加者は増加した。年間延べ利用者数は5,718人となり、入浴事業廃止のため前年比約56%となった。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	18,807,387	15,696,996	△ 3,110,391
受託金収入	18,806,267	15,696,796	△ 3,109,471
その他	1,120	200	△ 920
(支 出)	18,807,387	15,696,996	△ 3,110,391
人件費	9,581,050	10,094,306	513,256
事業費	4,407,237	1,565,671	△ 2,841,566
事務費	4,716,312	3,914,415	△ 801,897
その他	102,788	122,604	19,816

今後の課題
① 令和7年3月31日の老人福祉センター機能廃止に伴い、高齢者グループは解散または活動の継続を判断し、その後の活動の拠点を探さなければならない。
② 入浴事業終了等によって利用者が減少したことから、引き続き高齢者にとって関心のある事業を増やすことや新規登録を呼びかけて利用者増に取り組む必要がある。
③ 地域福祉活動の拠点として、福祉委員会等と連携し、利用者や市民の相談支援に積極的に取り組むことが重要である。

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	3,348,267	3,348,267	0
当期末支払資金残高	3,348,267	3,348,267	0

主な増減理由
① 人件費は、給与改定に伴う増
② 事業費は、入浴事業廃止に伴う水道光熱費の減
③ 事務費は、修繕費支出の減少に伴う減
④ その他支出は、ファイナンスの計上に伴う増

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

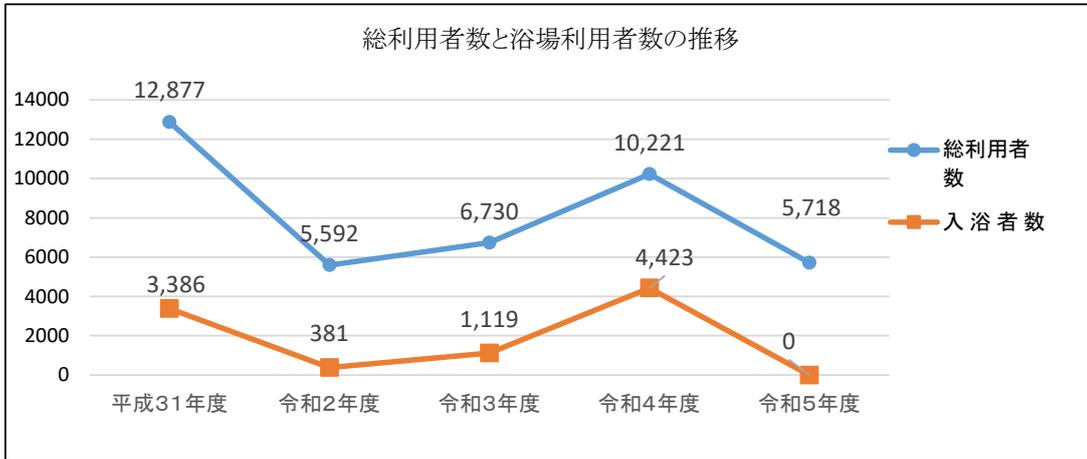
1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4										
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①										
【実績と成果】													
<p>・ 事業実施日数は241日で、入浴事業廃止のため利用者数は昨年より4,503人減少し、5,718人となった。個人利用者は、電位治療器、マッサージ器、血圧計、図書の貸出等で、年間1,504人の利用があり、趣味の会は、グループが減少し17グループの活動となったが、年間3,757人の利用があった。健康講座は、ながら体操(歌に合わせてストレッチ)は111人(6回/年)、出前健康測定会(保健センター)は25人、講座「生活習慣病とその予防」は21人の参加があった。勉強会は、危機管理室、北消防署、生活安全課の出前講座で合計57人の参加があった。創作講座は、絵手紙やたまごの殻で作ろうなど合計49人の参加があった。高齢者の健康増進、教養の向上、生きがいづくり、居場所としての役割を果たした。</p>													
(1)利用者状況													
個人利用者数	南部地区			中部地区			北部地区			全地区			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	60歳代	0	0	0	0	7	7	125	241	366	125	248	373
	70歳代	234	2	236	93	5	98	365	208	573	692	215	907
	80歳代	8	7	15	86	11	97	14	89	103	108	107	215
	90歳代	0	0	0	0	0	0	9	0	9	9	0	9
	計	242	9	251	179	23	202	513	538	1,051	934	570	1,504
	各種教室			242			趣味の会			3,757			
	各種行事			173			定期講座			21			
	貸 館			21									
	総 利 用 人 数											5,718	

月別開所日数・利用者数

6月2日大雨警報休館

8月15日暴風警報(台風)休館

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数(日)	20	20	20	20	21	21	21	20	20	19	19	20	241
利用者数(人)	446	436	464	491	457	536	628	457	422	446	479	456	5,718



(2) 趣味の会利用状況

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(延人数)
囲碁1	19	45	566
囲碁2	15	46	515
囲碁3	22	41	164
囲碁研究会	14	35	282
将棋	28	42	345
絵手紙(ミモザ)	17	10	83
自彊術	31	21	463
カラオケ(北摂会)	9	19	129
カラオケ(友愛会)	12	25	183
カラオケ(楽遊)	6	13	57
表装	6	16	33
漢詩吟詠会	9	24	152
パソコン(ミッキーマウス)	3	17	45
書道(のぎく)	4	15	54
楽しむフラダンス	9	23	143
健康体操(一の会)	30	12	179
グラウンドゴルフ(ことぶき会)	19	31	364
ゲートボール	休会中	休会中	休会中
計	253	435	3,757

(3) 定期講座受講状況

8月 7日 21日 28日 絵手紙定期講座 7人×3日間

(4) 行事・講座等の開催状況

開催月	開催内容	参加人数
5月	ながら体操(歌謡体操)	17
6月	出前講座災害から自分を守るために(危機管理室)	11
7月	ながら体操(歌謡体操)	22
8月	絵手紙定期講座(7日・21日・28日)	21
8月	代表者説明会(グループ活動発表会)	15
9月	ながら体操(歌謡体操)	24
9月	出前講座救急救命(川西北消防署)	30
10月	グループ活動発表会準備・発表会	147
11月	ながら体操(歌謡体操)	13
11月	創作講座「たまごの殻でサンタとトナカイを作ろう」	10
11月	避難訓練(初期消火・通報訓練・避難誘導)	3
11月	出前健幸測定会(保健センター)	25
12月	創作講座「たまごの殻で干支づくり」(12日午前午後・15日午後)	18
1月	ながら体操(歌謡体操)	21
2月	登録グループ説明会(令和6年度について)	11
2月	健康講座 生活習慣病とその予防「骨粗鬆症」	21
3月	ながら体操(歌謡体操)	14
3月	出前講座(生活安全課)消費者被害にあわないために	16
3月	2回目避難誘導訓練(初期消火・模擬通報訓練・避難誘導)	3
	計	442

(2) 地域の福祉拠点としての取り組み

取組項目 ②

【実績と成果】

- 開かれた施設として運営した。危機管理室による「災害から自分を守るために」や北消防署による「救急救命」の講座は自治会からの参加にも取り組んだ。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目 ③

【実績と成果】

- 安心して利用できるように、感染予防対策(到着時無接触検温、手指消毒、定期的換気、器具等消毒、職員のマスク着用)を継続した。施設スペースでの趣味の会等のグループ活動を支援し、生きがい・交流の場となった。長尾町自治会の高齢者の居場所づくり(ほっと笑)に月2回、自治会の会合に月1回、別館の活用があった。小中高生に夏期・冬期休みの学習スペースを提供したが、利用は少なかった。10月にグループ活動発表会(147人)を実施し、長尾町自治会にカフェと小物販売を依頼した。

主な事業内容・成果
<p>60歳以上の市民の方を対象に健康体操や健康講座の開催、趣味の会の活動支援を行った。そして、囲碁将棋や電位治療器等の提供、図書の貸し出しを通じて高齢者の孤立の解消、生きがいづくりや健康増進、教養等の向上を図ることができた。また今年度初めて、自治会と公民館、当センターが主催となり、文化祭「グリーンフェスタ2023」が開催された。生け花や書道、手芸や俳句を展示する趣味の会の活動展を1階ロビーで行い、地域住民に素晴らしい作品を見ていただくと共に当センターを知っていただくきっかけになった。さらに利用者や市民の相談支援を積極的に行い、地域の総合相談窓口の役割を果たした。</p>

今後の課題
<p>① 入浴事業終了等によって利用者が減少したことから、引き続き高齢者にとって関心のある事業を増やすことや新規登録を呼びかけて利用者増に取り組む必要がある。</p> <p>② 地域福祉活動の拠点として、福祉委員会等と連携し、利用者や市民の相談支援に積極的に取り組むことが重要である。</p> <p>③ 趣味の会の活動支援を行うと共に、年度末の老人福祉センター廃止に向けて準備を進めることが重要である。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	24,262,305	18,707,682	△ 5,554,623
受託金収入	24,253,395	18,698,002	△ 5,555,393
その他	8,910	9,680	770
(支 出)	24,262,305	18,707,682	△ 5,554,623
人件費	9,907,385	9,806,134	△ 101,251
事業費	8,320,878	3,482,443	△ 4,838,435
事務費	5,930,734	5,294,941	△ 635,793
その他	103,308	124,164	20,856

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,092,023	4,092,023	0
当期末支払資金残高	4,092,023	4,092,023	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、臨時職員の期末勤勉手当、通勤手当を支給する該当者が少なかったことに伴う減</p> <p>② 事業費は、入浴事業廃止に伴う水道光熱費の減</p> <p>③ 事務費は、害虫駆除委託業者変更に伴う業務委託料の減</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①

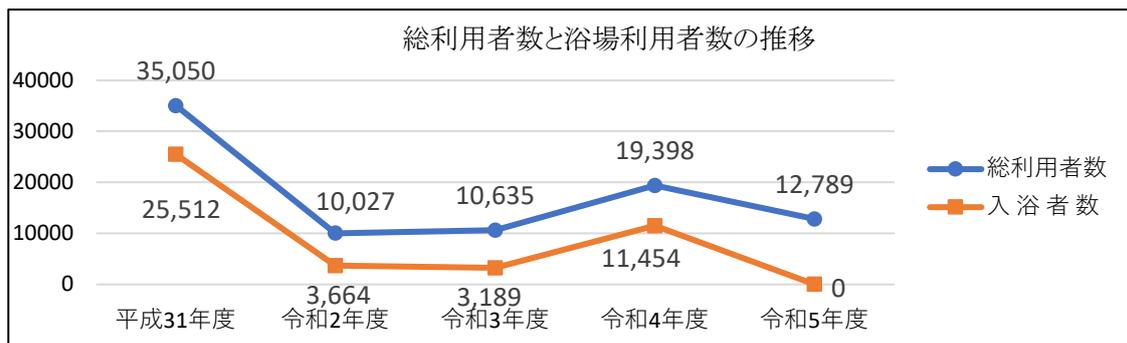
【実績と成果】

- 事業実施日は241日であり、利用者数は入浴事業の廃止の影響を受け昨年より6,600人減少し約12,800人であった。また一方で、新規登録者数は、新規講座の開催や登録呼びかけなどを行った結果、昨年より13名増の77人であった。健康体操を月1回開催すると共に健康講座等は、年6回開催予定であったが9回開催し、高齢者の健康増進や生きがいづくり、孤立の防止や居場所としての役割を果たすことができた。さらに、グリーンハイツ地区は、市内で最も特殊詐欺の被害が多いことから、趣味の会や個人利用者約280名に川西警察署が作成された特殊詐欺被害防止のチラシを配布し内容を説明するなど被害防止に取り組んだ。

(1)利用者状況

(単位:人)

	南部地区			中部地区			北部地区			全地区		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
個人利用者数												
60歳代	2	0	2	113	56	169	10	7	17	125	63	188
70歳代	162	85	247	957	1,013	1,970	370	86	456	1,489	1,184	2,673
80歳代	70	27	97	1,668	1,913	3,581	135	165	300	1,873	2,105	3,978
90歳代	1	1	2	323	40	363	8	6	14	332	47	379
計	235	113	348	3,061	3,022	6,083	523	264	787	3,819	3,399	7,218
貸し室							0	趣味の会			4,658	
各種行事							475	定期講座			0	
各種教室							438					
総利用人数	12,789											



(2) 趣味の会利用人数

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
俳句	15	23	287
生け花	10	21	125
GH盆踊り連	13	13	173
書道	10	24	196
卓球 福祉	18	25	303
卓球 りんどう	35	22	531
社交ダンス 福祉	16	22	311
フォークダンス	17	23	364
彩遊会	6	21	121
健康麻雀の会	58	21	767
ハッピー	31	21	291
社交ダンス アンジェリカ	10	23	195
懐メロと軽体操の会	20	16	184
ぴんとぼん	11	12	90
健康体操えがお	23	20	199
気功体操B	20	22	309
パソコン教室(ミニテーブル)	5	20	80
囲碁(ミニテーブル)	6	22	115
ふれあいサロン(ミニテーブル)	4	5	17
計	328	376	4,658

(3) 定期講座・教室等受講状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
健康体操	24	22	25	24	23	25	24	23	21	25	24	25	285
健康講座	—	—	23	13	—	14	10	12	—	24	—	28	124
初心者バレーンアート講座	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	—	—	9
出前講座	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	20
計	24	22	48	37	23	39	34	35	30	49	44	53	438

(4) その他行事等の開催状況

(単位：人)

開催月	開催内容	参加人数
11月	趣味の会活動展 (グリーンフェスタ2023・自治会、公民館、当センター主催) (生け花・書道・手芸・俳句の展示)	475
	計	475

(2)	地域の福祉拠点としての取り組み	取組項目 ②
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者や市民の方から年間延べ47件の相談等があり、関係機関等と連携して安否確認やサービス利用に繋げるなどの支援を行い、日常生活での困りごとを気軽に相談できる地域の窓口としての役割を担った。 		
(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目 ③
<p>①【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月から10月にかけて誰でも気軽に涼むことのできる場所であるクールシェアスポットを1階ロビーに設置し、延べ57名の方が利用があった。熱中症予防に役立つと共に市民の休憩場所として活用された。 9名ほど入室できる図書室には、小説やエッセイ、健康本など3,500冊余りの本があり、静かに読書を楽しむ方や本を借りられる方など図書室が活用されている。読書を通じて脳が活性化され、認知症予防や教養等の向上につながった。年間の図書貸出延べ人数は昨年より111人増えて827人、貸出延べ冊数も441冊増えて2,222冊であった。 当センター利用を幅広く呼び掛けていたところ、昨年10月に手芸グループが新たに1つ立ち上がり、ミニテーブルを使用して活動を開始した。 		

主な事業内容・成果
<p>市内在住の60歳以上の高齢者を対象に健康体操や健康講座、趣味の会の活動支援、世代間交流事業、図書の貸し出し、電位治療器・マッサージ器・血圧計の利用支援を実施した。</p> <p>令和4年度は、コロナ禍で実施できていなかった「敬老のつどい」「カラオケ発表会」が開催でき、参加された皆様に好評を得た。趣味の会のグループ体験会の開催や、有志による趣味の会の立ち上げなど趣味の会への支援も実施できた。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	11,046,130	11,650,632	604,502
受託金収入	11,044,310	11,649,262	604,952
その他	1,820	1,370	△ 450
(支 出)	11,046,130	11,650,632	604,502
人件費	8,150,310	8,960,263	809,953
事業費	1,187,065	940,127	△ 246,938
事務費	1,647,695	1,675,614	27,919
その他	61,060	74,628	13,568

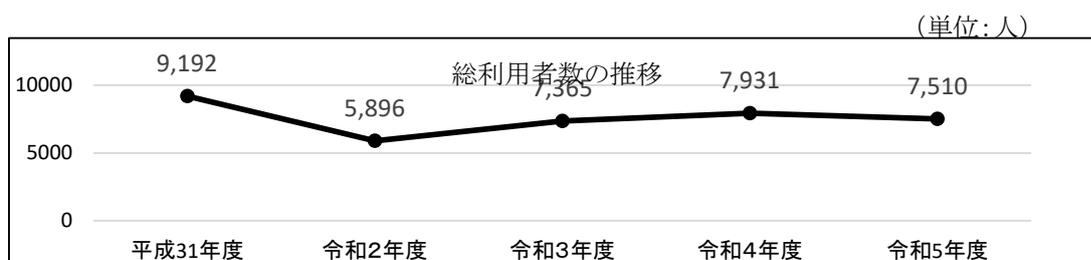
今後の課題
<p>① 利用者の高齢化等により利用人数は、引き続き減少傾向にあるため、ニーズを反映した講座の開催や趣味の会への継続した支援が必要である。</p> <p>② 来年度の老人福祉センター機能の廃止、その後の施設の運営の在り方を見据え、円滑な移行ができるよう取り組む。</p> <p>③ 地域の福祉拠点としての役割の確立に向け、地域や関係機関とのつながりをより深めていくことが必要である</p>

当期末支払資金残高	0	0	0
前期末資金収支残高	1,662,257	1,662,257	0
当期末支払資金残高	1,662,257	1,662,257	0

主な増減理由
<p>① 人件費は、給与改定実施に伴う職員給与支出の増</p> <p>② 事業費は、水道光熱費支出の減</p> <p>③ 事務費は、修繕費支出等の増</p> <p>④ その他支出は、ファイナンスリース計上に伴う増</p>

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4											
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①											
【実績と成果】														
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で実施できていなかった「敬老のつどい」「カラオケ発表会」を実施した。敬老のつどいには、隣接するアソシアの利用者にも参加していただき交流を図ることができた。 定期講座「ピラティス」の参加者に声をかけ、有志による趣味の会発足への支援を行った。また、登録者の減少が顕著な「囲碁」「将棋」のグループ体験会を実施した。 児童センターの季節のイベント(夏のお楽しみ会、ハロウィンパーティー、クリスマス会、節分のつどい)に趣味の会利用者等の参加協力を得て世代間交流が図れた。 														
(1)利用者状況 (単位:人)														
個人利用者数	南部地区			中部地区			北部地区			全地区				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	60歳代	1	379	380	0	0	0	0	0	0	1	379	380	
	70歳代	515	1,518	2,033	0	1	1	0	1	1	515	1,520	2,035	
	80歳代	346	665	1,011	0	0	0	0	0	0	346	665	1,011	
	90歳代	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
	計	862	2,566	3,428	0	1	1	0	1	1	862	2,568	3,430	
	定期講座				344			世代間交流			35			
	趣味の会				3,547			各種行事			109			
	各種教室				0			その他(貸し部屋等)			45			
	総利用人数											7,510		



(2) 趣味の会利用人数

グループ名	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
碁友会(囲碁)	6	39	80
囲碁同好会	4	33	76
将棋同好会	9	46	217
銀唱会(カラオケ)	9	19	135
ファインクラブカラオケ	9	19	90
すみれ会(ハーモニカ)	10	21	139
エコの会(エコクラブ)	10	22	153
ダーツ愛好会	13	24	241
MTC(卓球)	15	47	472
南りんどう同好会(卓球)	14	33	163
歌謡ダンス同好会	13	40	245
楽しむフラの会(フラダンス)	8	5	30
いきいき百歳体操	14	44	553
はつらつ会(体操)	11	24	221
骨盤体操「ひまわり」	18	22	312
シニアヨガ	10	23	230
Tクラブ(卓球)	6	29	104
YY卓球club	5	1	3
久代ピラティス愛好会	16	6	83
計	200	497	3,547

(3) 定期講座等受講状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ピラティス	31	27	27	—	—	30	30	30	—	—	—	—	175
健康体操	16	15	15	11	—	16	16	16	16	16	16	16	169
計	47	42	42	11	0	46	46	46	16	16	16	16	344

(4) 世代間交流状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
夏のお楽しみ会	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	6
ハロウィンパーティー	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	4
クリスマス会	—	—	—	—	—	—	—	—	24	—	—	—	24
節分のつどい	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
計	0	0	0	6	0	0	4	0	24	0	1	0	35

(5)その他行事等の開催状況

(単位：人)

開催月	開催内容	参加人数
4月	趣味の会(いきいき百歳体操)ビンゴ大会	14
8月	敬老のつどい 代表者会議	6
9月	敬老のつどい	76
1月	囲碁体験会	2
	将棋体験会	1
2月	カラオケ発表会	30
3月	趣味の会 レクリエーション・総会	25
計		154

(2) 地域の福祉拠点としての取組み

取組項目 ②

【実績と成果】

- ・ 地域における福祉の相談窓口として、関係機関等と調整が必要な相談などはなかった。
- ・ 地域活動の拠点事業として、川西市社会福祉法人連絡協議会が実施するフードドライブを8月、1月の2回にわたって実施した。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目 ③

【実績と成果】

- ・ 施設スペースを活用し、利用者の培ってこられた経験や趣味を発表する機会である「敬老のつどい」「カラオケ発表会」を実施した。

I1	地域福祉事業	決算科目	久代児童センター
----	--------	------	----------

主な事業内容・成果
<p>① 対象年齢に応じた子育て支援事業を実施し、事業を通して親子や子ども同士の触れ合い、情報交換の場や子ども同士の関わりを持つきっかけ作りが出来た。</p> <p>② 今年度から子ども若者相談センターのコーディネーター事業の開始に伴い、保護者からの相談について共に対応することで、子育てに関する悩みを解消することができた。</p> <p>③ 小学生対象のお料理・お菓子づくりの実施や児童対象のあそぼうDayを実施することで、遊びを通して職員との関係性を図ることができた。</p>

(単位: 千円)

	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	16,491,850	16,997,741	505,891
受託収入	16,491,850	16,973,046	481,196
その他	0	24,695	24,695
			0
			0
(支 出)	16,491,850	16,997,741	505,891
人件費	13,125,162	13,757,059	631,897
事業費	1,696,170	1,438,362	△ 257,808
事務費	1,606,334	1,718,320	111,986
その他	64,184	84,000	19,816
			0
			0

今後の課題
<p>① 保護者の「孤育て」にならないためにも職員が積極的に声をかけ話すきっかけを作り、コーディネーターと共に気軽に相談できる体制づくりが必要である。</p> <p>② LINE配信が社会福祉協議会に移行されたことから、募集人数が増加しない傾向になっている。今後、Instagramなどの情報配信を行い、より多くの利用者に参加してもらえるよう周知する。</p>

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	1,694,241	1,694,241	0
当期末支払資金残高	1,694,241	1,694,241	0

主な増減理由
<p>① その他収入は、寄付金収入および雑収入の増</p> <p>② 人件費は、給与改定実施に伴う職員給与支出の増</p> <p>③ 事業費は、水道光熱費支出の減</p> <p>④ 事務費は、修繕費支出等の増</p> <p>⑤ その他支出は、ファイナンスリース計上に伴う増</p>

令和5年度事業報告

※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業計画を記載

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、年間利用者数は9,740人と昨年度より305人の増加傾向となった。特に児童の利用者が昨年度に比べ824人増となった。 幼児クラブは次のとおり開催した。 <ul style="list-style-type: none"> あつまれBaby(手遊び、ふれあい遊び、グループトークなど 年6回 参加人数43人) 赤ちゃん交流会(手遊び、ふれあい遊び、グループトークなど 年7回 参加人数 36人) いっしょにあそぼう(手遊び、ふれあい遊び、運動遊び、グループトークなど 年8回 参加人数 109人) のびのびクラブ(手遊び、制作、サーキットなど 年8回 参加人数 227人) げんきっこクラブ(制作、サーキット、コーナー遊びなど 年6回 参加人数 32人) みんなであそぼう!(手遊び、リトミック、制作、コーナー遊びなど 年2回 参加人数 37人) 幼児カプラクラブ(カプラを使った造形遊び 年6回 参加人数 75人) 幼児工作教室(年2回 参加人数 6人) 読み聞かせ(年5回 参加人数 34人) 春、夏、冬休みカプラ遊び(年3回 参加人数 39人) 			

- ・ 児童クラブは、次のとおり開催した

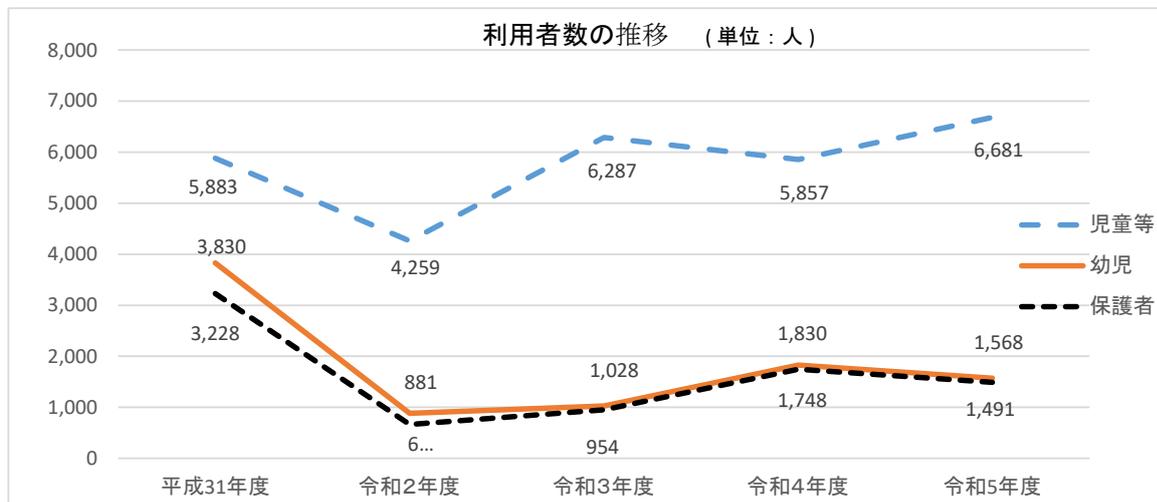
工作教室(年3回 参加人数 27人)、小学生カプラ(年10回 参加人数 97人)、春、夏、冬休みカプラ遊び(年3回 参加人数 15人)、
お料理教室(年2回 参加人数 18人)、あそぼうDay(年3回 参加人数 20人)

- ・ 今年度新たに生後6か月未満の乳児を対象に「あつまれBaby」の事業を実施した。月齢の近いこどもを持つ保護者が集まることができた為、交流や育児に関する悩みや情報交換の場となった。また、助産師を招き産後ケアの骨盤体操、親子とのふれあい遊び、子育て相談などを行い、日々子育てに専念している保護者の相談対応にも応じてもらうことができた。
- ・ ハロウィンやクリスマス会などの季節行事では、老人福祉センターの利用者や地域ボランティアの方の協力により、制作のお手伝いやハーモニカによる演奏披露等を行い、世代間交流を図ることができた。
- ・ 今年度より、こども若者相談センターの地域コーディネーターによる子育てに関する相談業務が開始。週1回のペースで来館されることで、より専門性の高い相談対応ができるようになり保護者の安心感を得られた。また、コーディネーターと共に保護者の見守りができるようになった。

利用者状況

(単位:人)

		男	女	計				
児 童 等	1年生	39	69	108	幼 児	873	695	1,568
	2年生	351	335	686				
	3年生	447	353	800				
	4年生	597	419	1,016	保 護 者	127	1,364	1,491
	5年生	1,119	331	1,450				
	6年生	1,353	600	1,953				
	中学・高校	471	197	668				
	小計	4,377	2,304	6,681	合 計	5,377	4,363	9,740



(2)	地域福祉拠点としての取組み	取組項目	②
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、人数制限も緩和された中で子育てフェスティバルが開催され参加することができた。 今年度からこども若者相談センターより各地域別にコーディネーターによる子育て相談が始まった。より専門性の高い相談対応が可能になり、連携して保護者の見守りができるようになった。 子育て支援に関する相談件数は延べ21件であった。相談内容としては保護者自身の相談が15件、子どもに関する相談は21件となり、その中でも発育に関する相談件数が9件となった。 			

(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> トライやるウィークでは、学生が利用者と関わったりクリスマス会のプレゼント作りに取り組み、普段味わうことのない体験ができた。また、段ボールで卓球ラケットを作り児童にも好評を得ることができた。 今年度も、隣接するアソシア・ジョブの利用者と職員に夏のおたのしみ会ではヨーヨー釣り、ハロウィン子ども達の仮装のお披露目や、節分の会の鬼役などで参加していただき連携を図ることができた。 川西児童館と共催事業を2回開催。両施設に職員が出向き、交換事業を行うことで保護者に事業内容や市内に児童館や児童センターの施設があることを知ってもらい繋がりを広めてもらう機会を設けることができた。また職員同士の連携も図ることができた。 こども若者相談センター主催の「子育て支援拠点連絡会」に参加し、各拠点の状況や困り事を話し合うことで情報共有し、今後の対策を考えることができた。 			

12	子育て支援事業	決算科目	ファミリーサポートセンター事業
----	---------	------	-----------------

事業概要	会員制による地域での子育て援助活動
------	-------------------

主な事業内容・成果
<p>「子育ての応援をしてほしい」(依頼会員)、「子育ての応援をしたい」(協力会員)、「子育ての応援をしてほしいし、応援もしたい」(両方会員)という地域住民が会員として登録し、保育所への送迎や学童終了後の預かり等、地域の中で育児の相互援助活動を行う会員制の組織である。</p> <p>会員同士のつながりが深まるよう、交流会や講習会を開催し、Instagram開設で周知活動に取り組んだ。また、サポートの様子を動画にまとめ、川西市公式YouTubeや能勢口駅前のデジタルサイネージなどでPR配信などを行った。</p>

今後の課題
<p>① 地域の関係機関や団体等へ説明会を行うなど制度を周知し、会員の拡充に努める。</p> <p>② ICTを使った入会登録など、手続きの簡素化に努める。</p> <p>③ 複合的課題に対応できるよう、職員の資質向上、社協内連携強化に取り組み、依頼会員の相談への対応をスキルアップする。</p>

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和4年度	令和5年度	増減
(収 入)	7,553,634	7,930,220	376,586
受託金収入	7,553,634	7,930,220	376,586
その他			
(支 出)	7,553,634	7,930,220	376,586
人件費	6,229,610	6,324,943	95,333
事業費	264,361	474,836	210,475
事務費	944,315	1,001,525	57,210
その他	115,348	128,916	13,568

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 事業費支出は、消耗器具備品費支出等の増

令和5年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに、事業報告を記載

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目	③
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アステ支援ルームとの連携により、出張登録会を実現。人材の発掘に取り組んだ結果、依頼会員数が増加した。 ・ 川西市公式YouTubeなどの配信により、サポートの内容がわかりやすくなったことで、協力会員の増加につながった。 ・ 新たな協力会員や未受講者への安全講習を開催し、リスクマネジメントの徹底を図った。 ・ サブリーダーを中心に協力会員同士のつながりを深めるためのサポーター座談会の開催、児童養護施設の視察や外部講師を呼んでサブリーダー研修の実施など、幅広く会員の資質向上に取り組んだ。 			

① 地域別会員登録者数(令和6年3月31日現在)

地 区	依頼会員	協力会員	両方会員	合 計
久代小	33	10	10	53
加茂小	57	13	10	80
川西小	93	19	18	130
桜が丘小	45	13	5	63
川西北小	60	10	11	81
明峰小	65	22	20	107
けやき坂小	32	16	14	62
多田小	33	19	12	64
多田東小	39	7	5	51
緑台小・陽明小	49	13	18	80
清和台小・清和台南小	29	23	9	61
東谷小	46	22	7	75
牧の台小	54	20	13	87
北陵小	16	5	4	25
猪名川町	63	29	28	120
宝塚市・伊丹市	13	5	3	21
合 計	727	246	187	1,160
入 会	86	21	2	109
退 会	62	10	3	75

② 会員確保に向けた取り組み

開 催 日	内 容	参加者(人)
6月27日	大和地区福祉委員会でのPR	50
7月18日	川西市公式YouTubeチャンネルでのサポート動画公開※1	—
7月24日	かわにしファミリーサポートセンター公式Instagram開設	—
8月9日	多田民児協児童部会研修会でのPR	20
8月14日	川西能勢口駅連絡通路デジタルサイネージでのPR動画発信※2	—
9月28日	猪名川イオン1階デジタルサイネージでのPR動画発信	—
10月14日	川西市役所1階デジタルモニターでのPR動画発信※3	—
1月23日	アステプレイルーム出張登録会	10
2月5日	主任児童委員部会でのPR	16
3月1日	新一年生入学説明会でのリーフレット配布 ※4	—
3月1日	猪名川町広報紙「広報いながわ」掲載	—
3月1日	広報紙「ぼけっと」掲載 ※5	—
3月3日	多田東地区福祉委員 福祉講座でのPR	42

※1 「送迎編」「預かり編」「きずな編」の3作品を公開

※2 8/14～10/14までの2か月間

※3 ※1のYouTube動画3本を発信

※4 川西市、猪名川町の新一年生約1,300人に配布

※5 川西市内の全戸配布。(7、10、3月)

③ 講習会の開催

開催日	内 容	参加者(人)
5月22日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習1回目	5
5月31日	第1回講習会「子どもと向き合う处世術」～あそび編～	23
6月6日	ステップアップ研修 1回目「救急救命講習」	15
7月11日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習2回目	4
7月25日	第2回講習会「自分を知らう！」	31
9月20日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習3回目	2
9月27日	第3回講習会「未来を担うこどもたち」	40
10月17日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習4回目	6
11月7日	第4回講習会「サポート中の肩こりを防ごう！」	12
11月13日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習5回目	4
11月20日	宝塚と合同のサブリーダー研修(川西にて)	11
12月6日	ステップアップ研修 2回目「救急救命講習」	12
12月19日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習6回目	2
1月17日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習7回目	2
2月20日	子育て支援講座「こどものことをもっと知りたい！」	20
3月12日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習8回目	2
随 時	入会時の入会登録と制度説明会	102

④ 交流会の開催

開催日	内 容	参加者(人)
7月3日	サポーター座談会2023	25
12月15日	クリスマス交流会(調理実習)	24

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2									
(1)	ホームページや広報紙、SNSなどの充実	取組項目	③									
<p>【実績と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市や社協LINEや市の広報誌を活用し、ファミサポ通信(情報誌)や講習会開催の情報発信を行うことで、会員以外の地域住民に対しても、幅広くセンターの情報発信や啓発の推進に取り組んだ。また、サポート活動取材した動画と30秒動画を作成し、駅前デジタルサイネージ、川西市公式YouTube、市役所ロビー、川西能勢口駅、猪名川イオンで公開し、啓発に取り組んだ。 インスタグラムの開設で、より幅広い世代に周知活動をおこなった。 <p>① 広報紙(ファミリーサポート通信)の発行</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>号数</th> <th>発行月</th> <th>部数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第57号</td> <td>7月(夏発行)</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>第58号</td> <td>2月(春発行)</td> <td>2,000</td> </tr> </tbody> </table>				号数	発行月	部数	第57号	7月(夏発行)	2,000	第58号	2月(春発行)	2,000
号数	発行月	部数										
第57号	7月(夏発行)	2,000										
第58号	2月(春発行)	2,000										

3	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①

【実績と成果】

- ・ 配慮のいる依頼会員への入会登録やサポート相談では、相談支援包括化推進員とケース会議にて情報共有をし、詳細な家庭状況を把握することで、依頼会員へ適宜な対応を行うことができた。
- ・ 川西市子育てフェスティバルの参画を通して、各関係団体との連携を深めた。

① サブリーダー会、各種研修会、講習会、イベントへの職員の参画

開催日	内 容	参加スタッフ数(人)
毎月第3月曜	サブリーダー会(原則、8月を除く毎月開催)	106
6月24日	里親総会への出席	1
6月25日	猪名川キッズフェスティバルでのPR(パネル展示)	—
8月24日	阪神地域アドバイザー会議(伊丹市・宝塚市・三田市・尼崎市・西宮市・芦屋市・川西)	3
10月13日	全国アドバイザー講習会・交流会	1
10月24日	市デザイン研修	1
11月7日	ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議	3
11月25日	子育てフェスティバル	3
12月14日	リスクマネジメント講習会	2
2月9日	兵庫県アドバイザー等研修会	1

② 地域別依頼受付数と実援助活動件数

地域区分	依頼受付数			活動件数	依頼会員 世帯	協力会員 世帯
	受付	キャンセル	不成立			
久代小	6	2	1	3	3	3
加茂小	59	6	1	52	7	1
川西小	95	13	5	77	8	7
桜ヶ丘小	21	2	0	19	2	1
川西北小	13	3	1	9	6	1
明峰小	24	10	0	14	10	2
けやき坂小	2	2	0	0	0	2
多田小	2	2	0	0	0	2
多田東小	4	2	0	2	1	2
緑台小・陽明小	62	2	2	58	5	1
清和台小・清和台南小	59	19	0	40	2	2
東谷小	20	2	0	18	1	4
牧の台小	54	4	1	49	5	8
北陵小	2	0	0	2	0	0
猪名川町	221	20	1	200	5	3
宝塚市・伊丹市	3	2	0	1	1	0
合 計	647	91	12	544	56	39

※ キャンセルの主な理由

- ・ 家族で対応
- ・ 子どもの体調不良(学級閉鎖含む)
- ・ 台風の影響

※ 不成立の主な理由

- ・ 協力会員の都合が合わない

③ 依頼内容別援助活動件数

活 動 内 容	件 数
保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり	37
保育施設までの送迎	90
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	89
学校の放課後の子どもの預かり	0
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	0
買い物等の外出の際の子どもの預かり	1
子どもの病気の際の預かり	0
小学校、養護学校等の登校前の子どもの預かり	86
放課後児童クラブの開始前の子どもの預かり	8
習い事等への子どもの送迎	131
保育所・学校等が休み時の子どもの預かり	10
保護者が兄弟・姉妹の習い事等の送迎を行う際の子どもの預かり	1
保護者の病気、その他急用の場合の子どもの預かり	7
保護者等の求職活動中の子どもの預かり	0
保護者等の自宅就労、短時間、臨時的就労の場合の子どもの預かり	4
保護者の趣味、リフレッシュの際の子どもの預かり	22
その他（母の健康診断時の兄弟の預かり）	58
合 計	544